

Ⅲ 調査結果の分析

1 定 住 性

1－1 居住年数

1－2 定住・転出意向

1－3 新たに住んだ区民と以前から住んでいる区民との交流

1 定住性

1-1 居住年数

◇《長期居住者》は5割を超える

問1 あなたは、江東区に住んで何年になりますか。次の中から1つだけ選んでください。

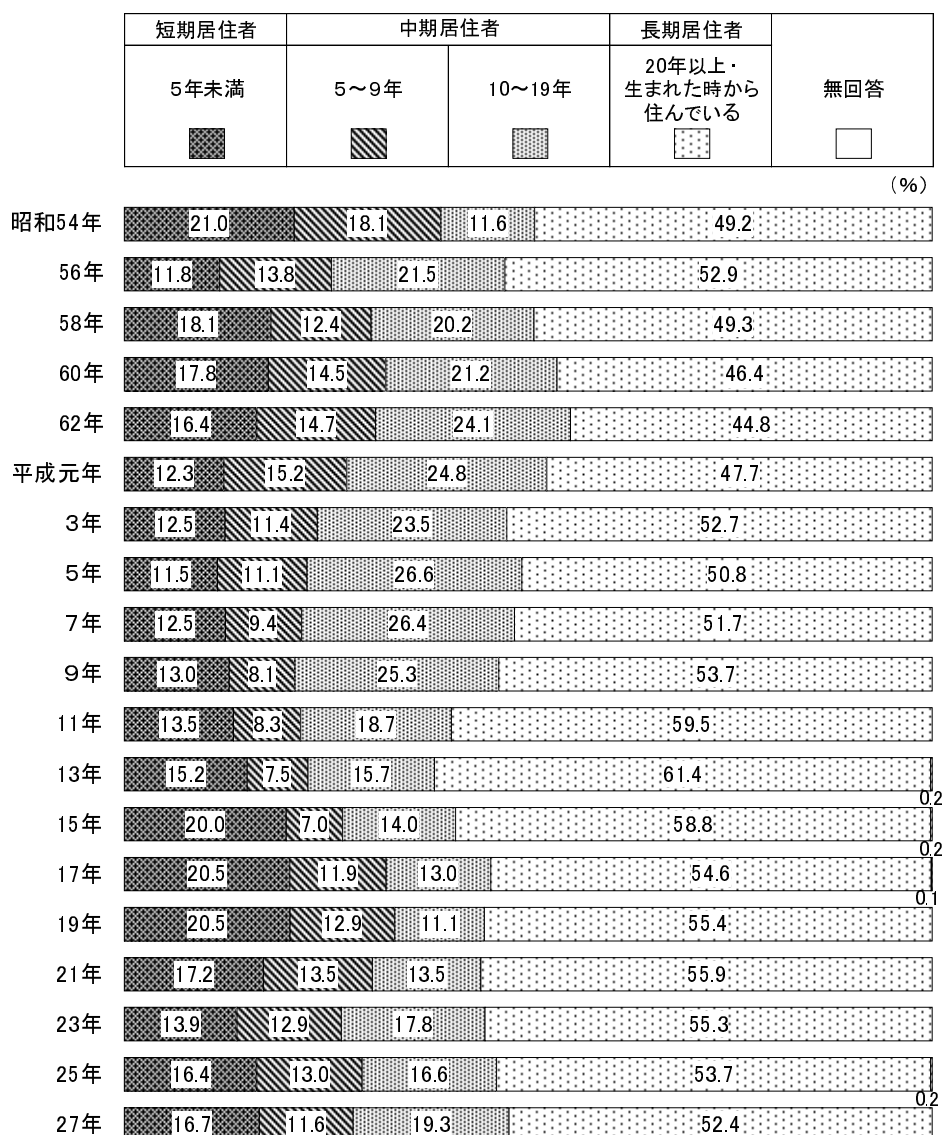
(n=1,061)

1	5年未満	16.7%	4	20年以上	39.0%
2	5～9年	11.6%	5	生まれた時から住んでいる	13.4%
3	10～19年	19.3%			

居住年数については、「20年以上」（39.0%）と「生まれた時から住んでいる」（13.4%）の2つを合わせた《長期居住者》（52.4%）が5割を超えている。「5～9年」（11.6%）と「10～19年」（19.3%）の2つを合わせた《中期居住者》（30.9%）はほぼ3割で、「5年未満」の《短期居住者》（16.7%）は2割近くとなっている。

時系列の変化をみると、《長期居住者》は平成21年から減少傾向にある。（図表1-1-1）

図表1-1-1 居住年数一時系列比較

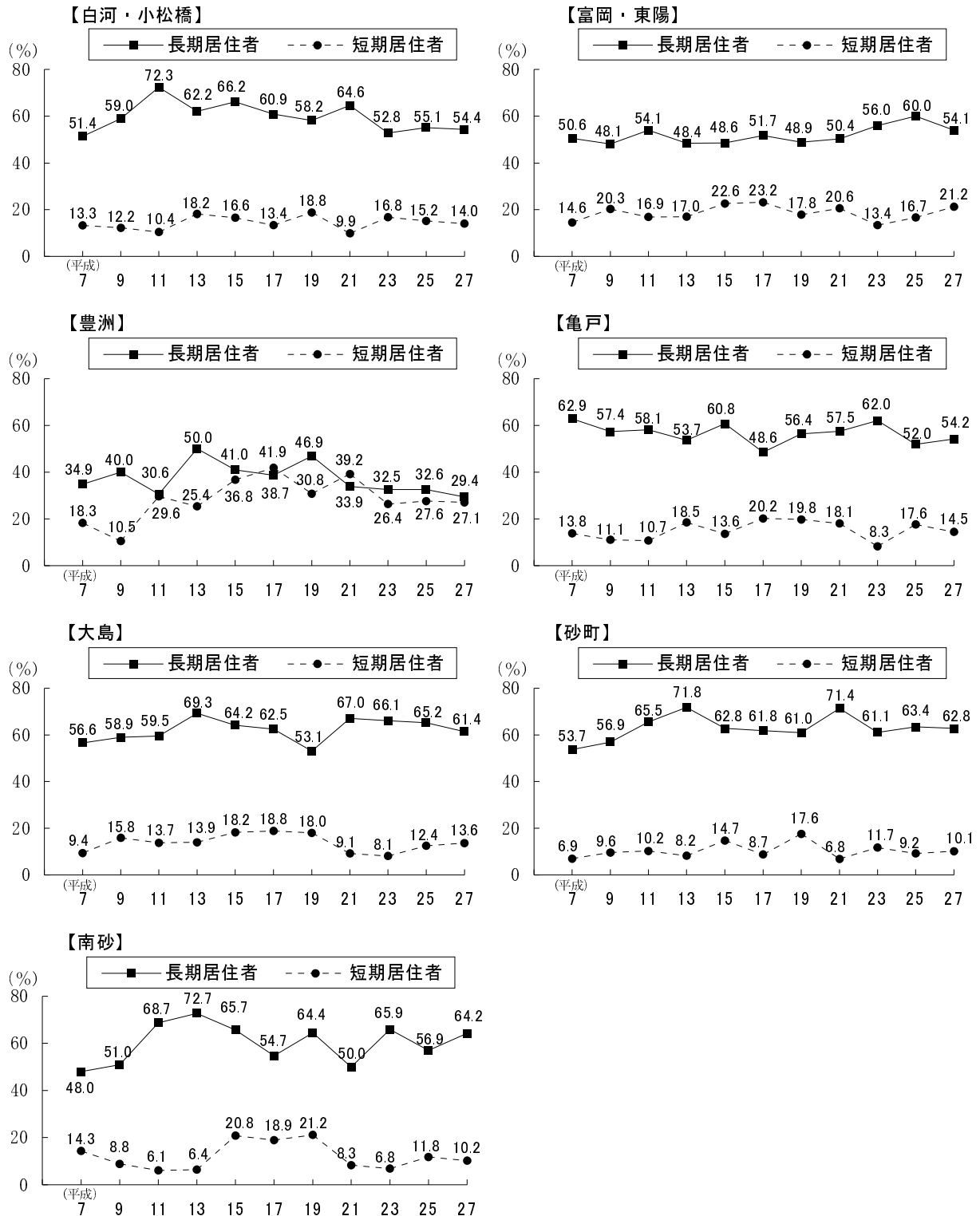


【地区別長期・短期居住者の推移】

地区別で、《長期居住者》と《短期居住者》の推移をみると、《長期居住者》は前回調査と比べて【南砂】地区で7ポイント高く、【富岡・東陽】地区で6ポイント低くなっている。また、《短期居住者》は前回調査と比べて【富岡・東陽】地区で5ポイント高くなっている。

(図表1-1-2)

図表1-1-2 居住年数（長期・短期居住者の推移）－地区別

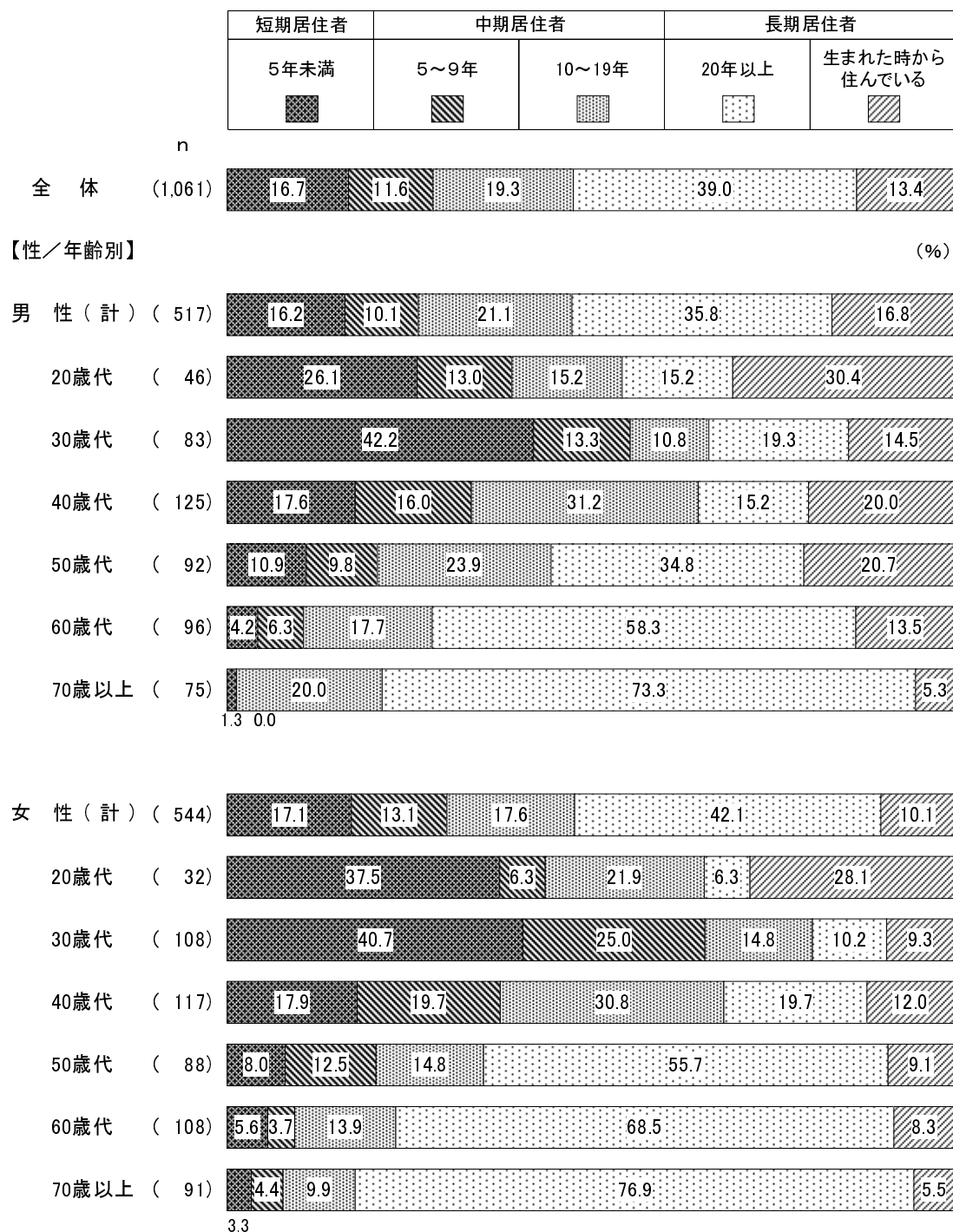


【性別・性／年齢別】

性別でみると、「生まれた時から住んでいる」は男性の方が女性より7ポイント高く、「20年以上」は女性の方が男性より6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、《短期居住者》は男女ともおおむね低い年代ほど割合が高く、男性30歳代で4割を超えている。《中期居住者》は女性40歳代でほぼ5割、《長期居住者》は女性70歳以上で8割を超えている。（図表1-1-3）

図表1-1-3 居住年数－性別・性／年齢別



1-2 定住・転出意向

◇《定住意向》は9割

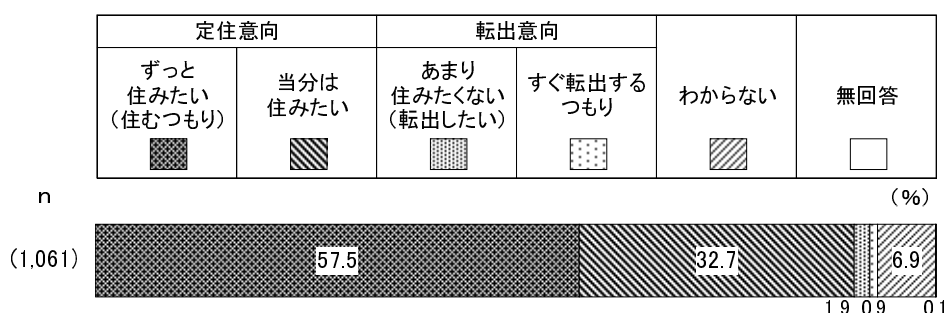
<p>問2 あなたは、これからも江東区に住みたいと思いますか。次の中から<u>1つだけ</u>選んでください。(n=1,061)</p>			
1 ずっと住みたい(住むつもり)	57.5%	4 すぐ転出するつもり	0.9%
2 当分は住みたい	32.7%	5 わからない	6.9%
3 あまり住みたくない(転出したい)	1.9%	無回答	0.1%

<p>(問2で、「1」か「2」とお答えの方に) 問2-1 あなたが、住みたい理由を次の中から<u>2つまで</u>選んでください。(n=957)</p>	<p>(問2で、「3」か「4」とお答えの方に) 問2-2 あなたが、住みたくない理由を次の中から<u>2つまで</u>選んでください。(n=30)</p>
1 自分の家(土地)だから 39.4%	1 借家だから 20.0%
2 商売の関係で 3.4%	2 商売にならないから -
3 通勤・通学に便利 25.8%	3 通勤・通学に不便 3.3%
4 生活環境がよい 19.9%	4 生活環境が悪い 26.7%
5 こどもの教育上 2.8%	5 こどもの教育上よくない 3.3%
6 日常生活に便利 40.0%	6 日常生活が不便 20.0%
7 住みなれているから 40.0%	7 人情味がない 6.7%
8 人情に厚く、親切 2.4%	8 災害に対し危険 26.7%
9 UR・公社・都営・区営の住宅に入れたから 5.3%	9 交通事故が多い 3.3%
10 その他 2.2%	10 その他 43.3%
無回答 0.2%	

(1) 定住・転出意向

定住・転出意向については、「ずっと住みたい(住むつもり)」(57.5%)と「当分は住みたい」(32.7%)の2つを合わせた《定住意向》(90.2%)は9割となっている。一方、「あまり住みたくない(転出したい)」(1.9%)、「すぐ転出するつもり」(0.9%)は1割に満たない。(図表1-2-1)

図表1-2-1 定住・転出意向

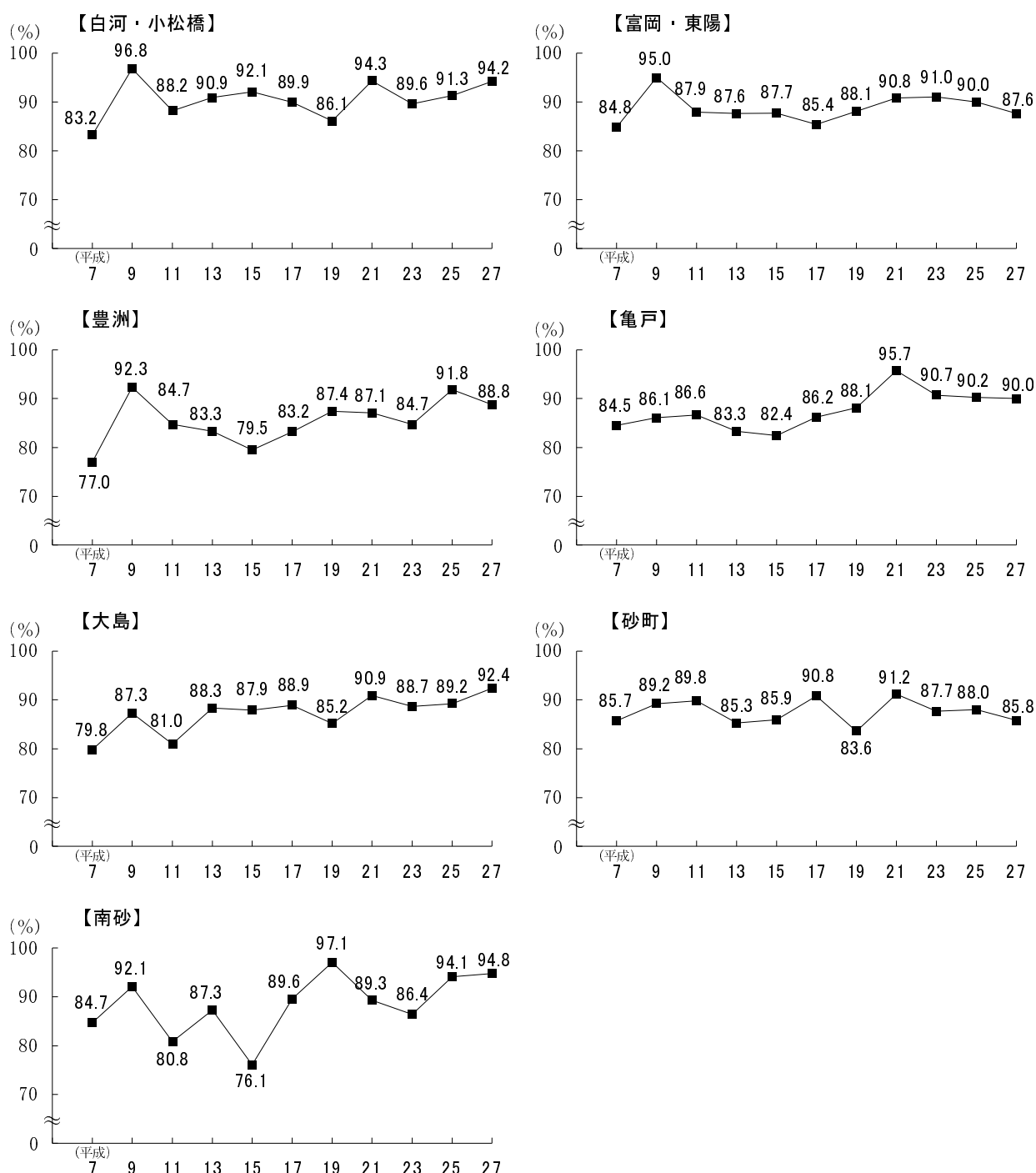


【地区別定住意向の推移】

地区別で《定住意向》の推移をみると、前回調査と比べて【大島】地区と【白河・小松橋】地区で3ポイント高く、【豊洲】地区で3ポイント低くなっている。また、すべての地区で8割以上となっており、全体として各地区とも引き続き高い状態を保っている。

(図表1-2-2)

図表1-2-2 定住意向の推移—地区別

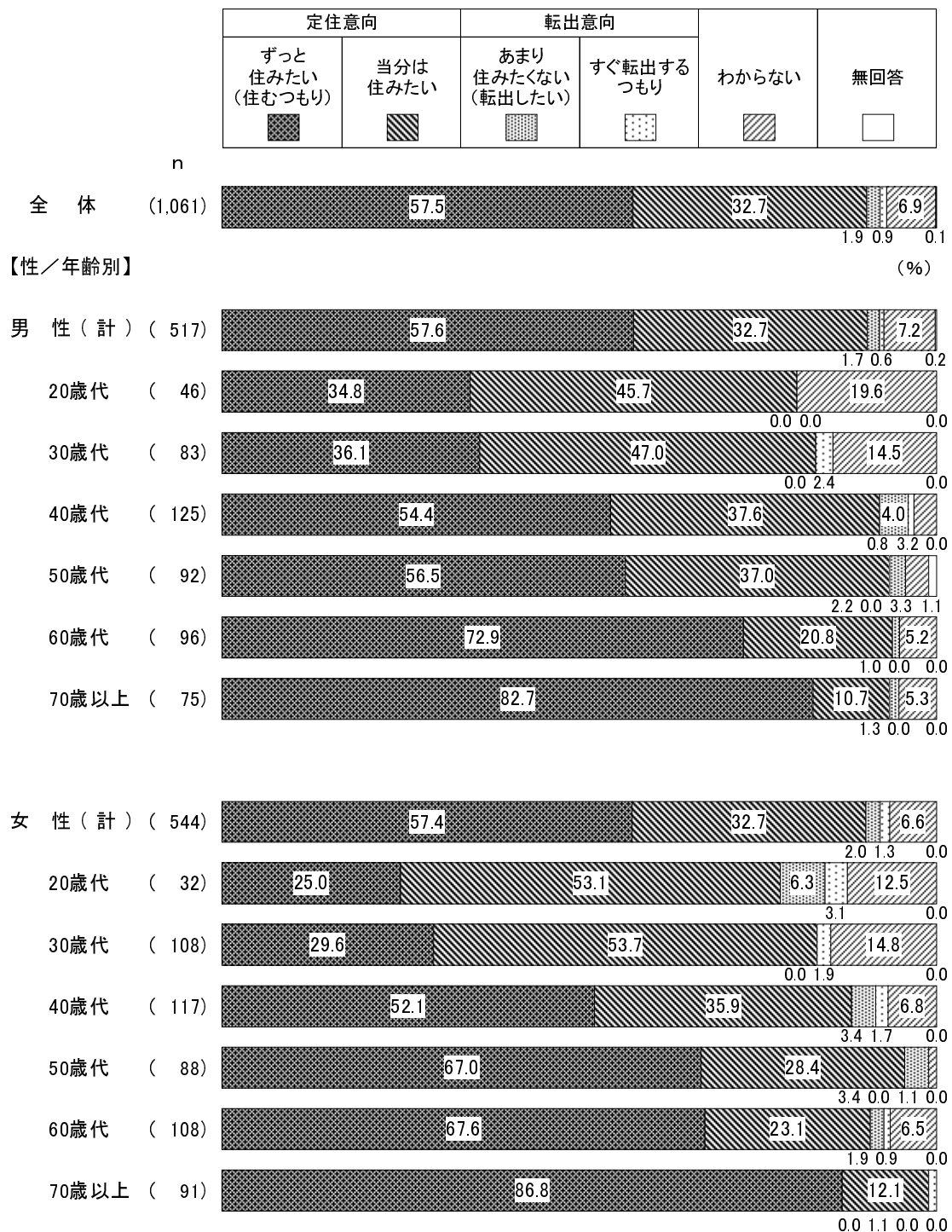


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、男女間で大きな差はみられない。

性／年齢別で見ると、「ずっと住みたい（住むつもり）」は男女とも高い年代ほど割合が高くなっている。《定住意向》は男性の40歳以上の年代と女性の50歳以上の年代で9割台となっている。（図表1-2-3）

図表1-2-3 定住・転出意向－性別・性／年齢別

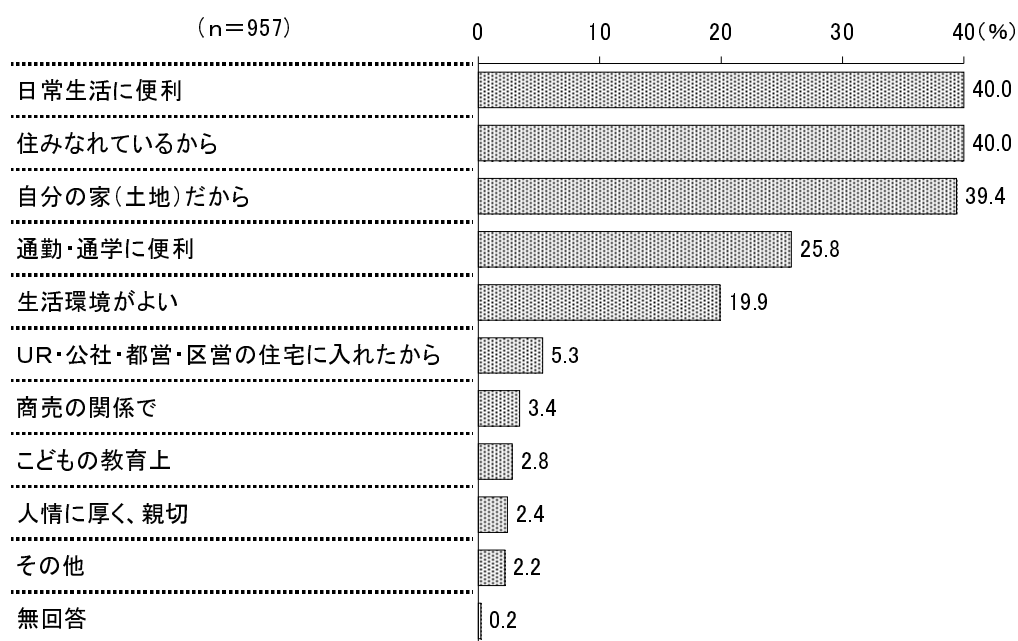


(2) 定住意向理由

◇「日常生活に便利」と「住みなれているから」が4割

定住意向理由については、「日常生活に便利」と「住みなれているから」（ともに40.0%）が4割で最も多く、次いで「自分の家（土地）だから」（39.4%）、「通勤・通学に便利」（25.8%）と続いている。（図表1-2-4）

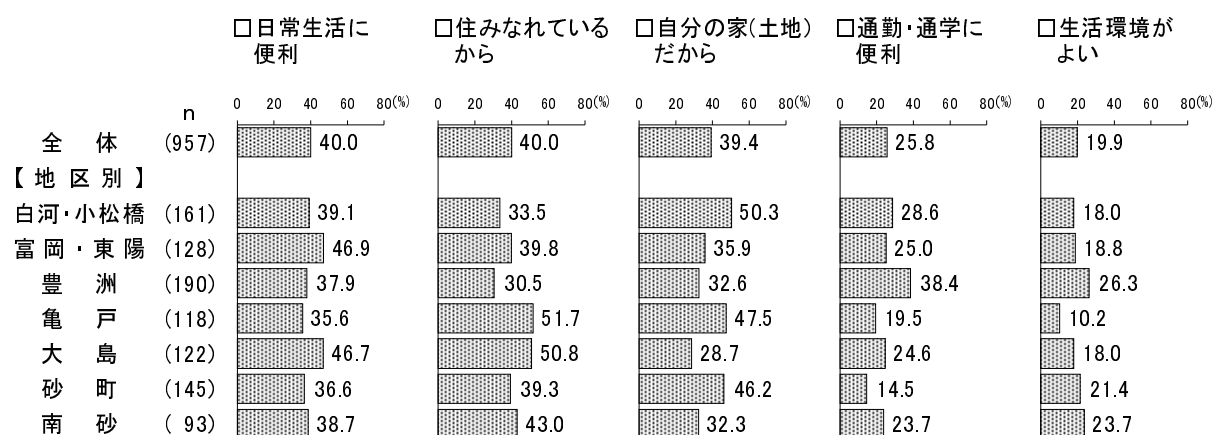
図表1-2-4 定住意向理由（複数回答）



【地区別】

地区別でみると、「日常生活に便利」は【富岡・東陽】地区と【大島】地区で5割近くとなっている。「住みなれているから」は【亀戸】地区で5割を超え、「自分の家（土地）だから」は【白河・小松橋】地区で5割、「通勤・通学に便利」は【豊洲】地区で4割近くとなっている。（図表1-2-5）

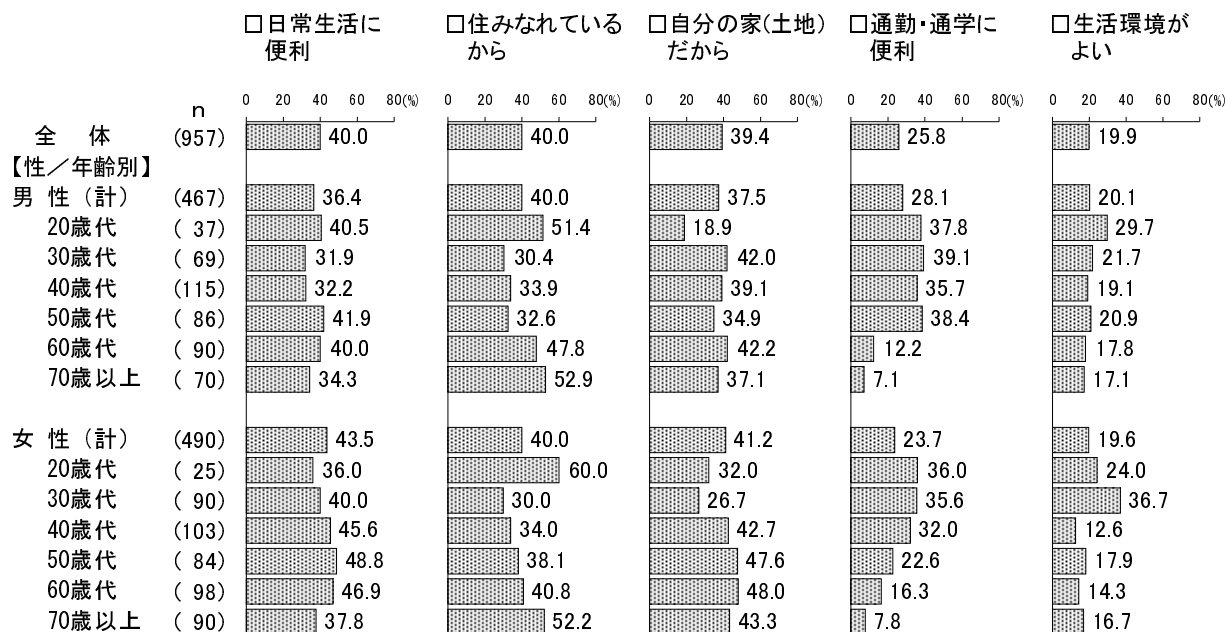
図表1-2-5 定住意向理由—地区別（上位5項目）



【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「日常生活に便利」は女性の方が男性より7ポイント高くなっている。
 性／年齢別で見ると、「日常生活に便利」は女性の50歳代と60歳代で5割近くとなっている。
 「住みなれているから」は女性20歳代で6割となっている。（図表1-2-6）

図表1-2-6 定住意向理由－性別・性／年齢別（上位5項目）



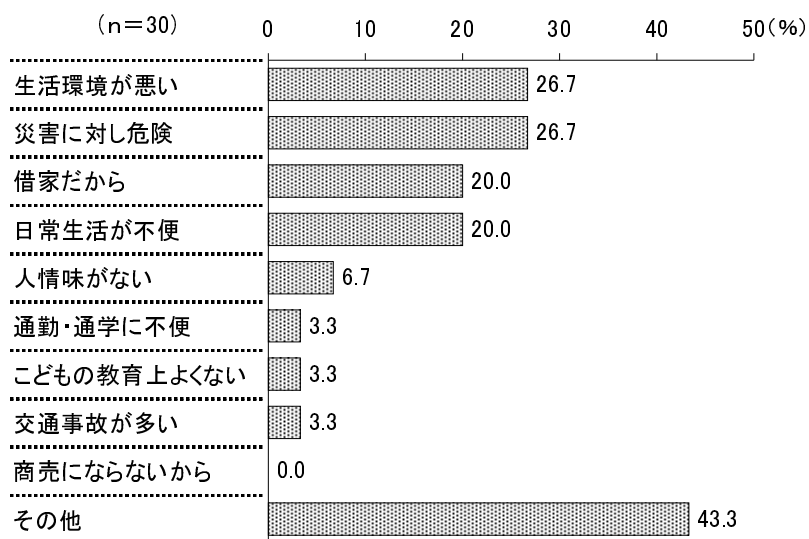
(3) 転出意向理由

◇「生活環境が悪い」と「災害に対し危険」が3割近く

転出意向理由としては、「生活環境が悪い」と「災害に対し危険」（ともに26.7%）が3割近くで最も多く、次いで「借家だから」と「日常生活が不便」（ともに20.0%）が続いている。

（図表1-2-7）

図表1-2-7 転出意向理由（複数回答）



1-3 新たに住んだ区民と以前から住んでいる区民との交流

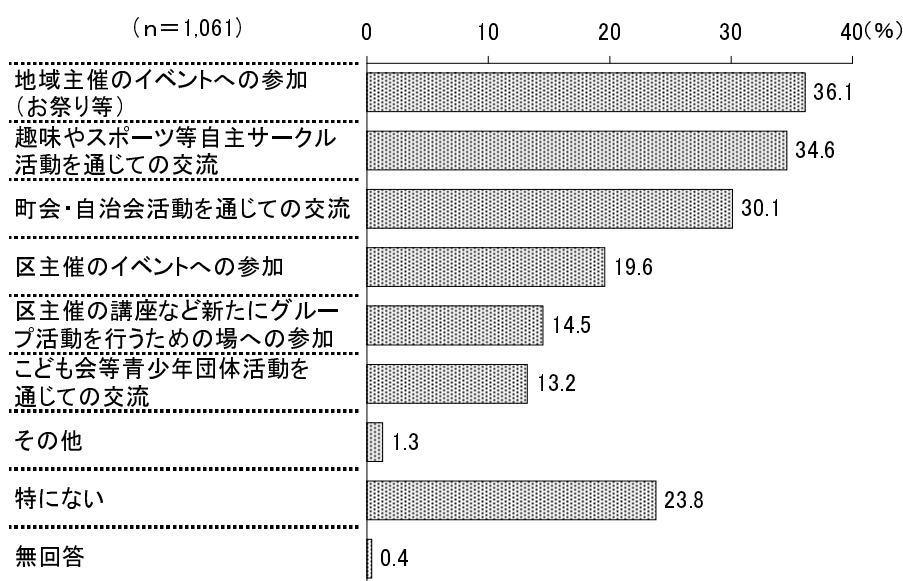
◇「地域主催のイベントへの参加（お祭り等）」と「趣味やスポーツ等自主サークル活動を通じての交流」が3割台半ば

問3 ご近所の中で新たに江東区に住まれた方と、以前から住んでいる方が交流を深める場合、あなたはどのようなことなら参加できますか。次の中からすべて選んでください。（n=1,061）

1 町会・自治会活動を通じての交流	30.1%
2 こども会等青少年団体活動を通じての交流	13.2%
3 趣味やスポーツ等自主サークル活動を通じての交流	34.6%
4 区主催の講座など新たにグループ活動を行うための場への参加	14.5%
5 区主催のイベントへの参加	19.6%
6 地域主催のイベントへの参加（お祭り等）	36.1%
7 その他	1.3%
8 特にない	23.8%
無回答	0.4%

新たに江東区に住んだ区民と、以前から江東区に住んでいる区民が交流を深めるために参加できることは何か聞いたところ、「地域主催のイベントへの参加（お祭り等）」（36.1%）と「趣味やスポーツ等自主サークル活動を通じての交流」（34.6%）が3割台半ばで多く、次いで「町会・自治会活動を通じての交流」（30.1%）と続いている。（図表1-3-1）

図表1-3-1 新たに住んだ区民と以前から住んでいる区民との交流（複数回答）

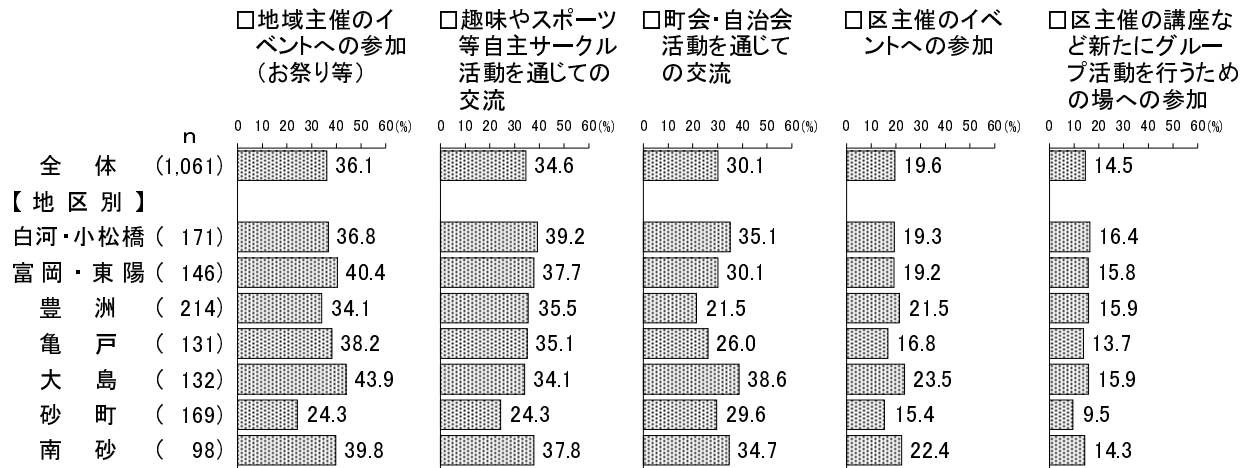


【地区別】

地区別でみると、「地域主催のイベントへの参加（お祭り等）」は【大島】地区で4割を超えている。「趣味やスポーツ等自主サークル活動を通じての交流」は【白河・小松橋】地区でほぼ4割、「町会・自治会活動を通じての交流」は【大島】地区で4割近くとなっている。

(図表1-3-2)

図表1-3-2 新たに住んだ区民と以前から住んでいる区民との交流—地区別(上位5項目)

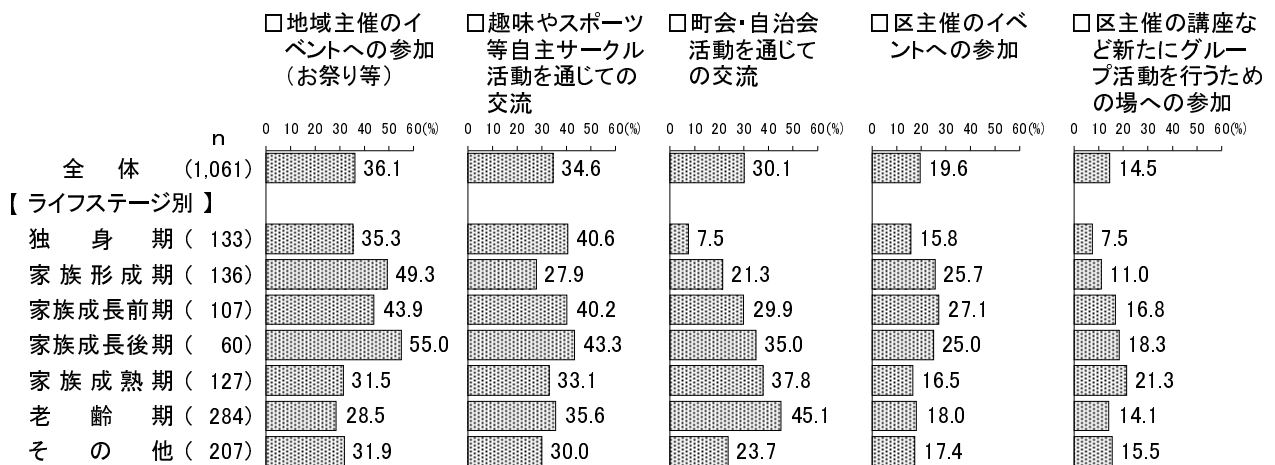


【ライフステージ別】

ライフステージ別でみると、「地域主催のイベントへの参加（お祭り等）」は家族成長後期で5割台半ばとなっている。「町会・自治会活動を通じての交流」はライフステージ段階を重ねるほど割合が高く、高齢期で4割台半ばとなっている。(図表1-3-3)

図表1-3-3 新たに住んだ区民と以前から住んでいる区民との交流

—ライフステージ別(上位5項目)



2 防災対策

-
- 2-1 震災時の不安
 - 2-2 震災時の備え
 - 2-3 家庭内で準備している防災用品・用具
 - 2-4 防災対策への要望
 - 2-5 平常時に閲覧したい防災ホームページの情報
 - 2-6 入手しやすい緊急情報
-

2 防災対策

2-1 震災時の不安

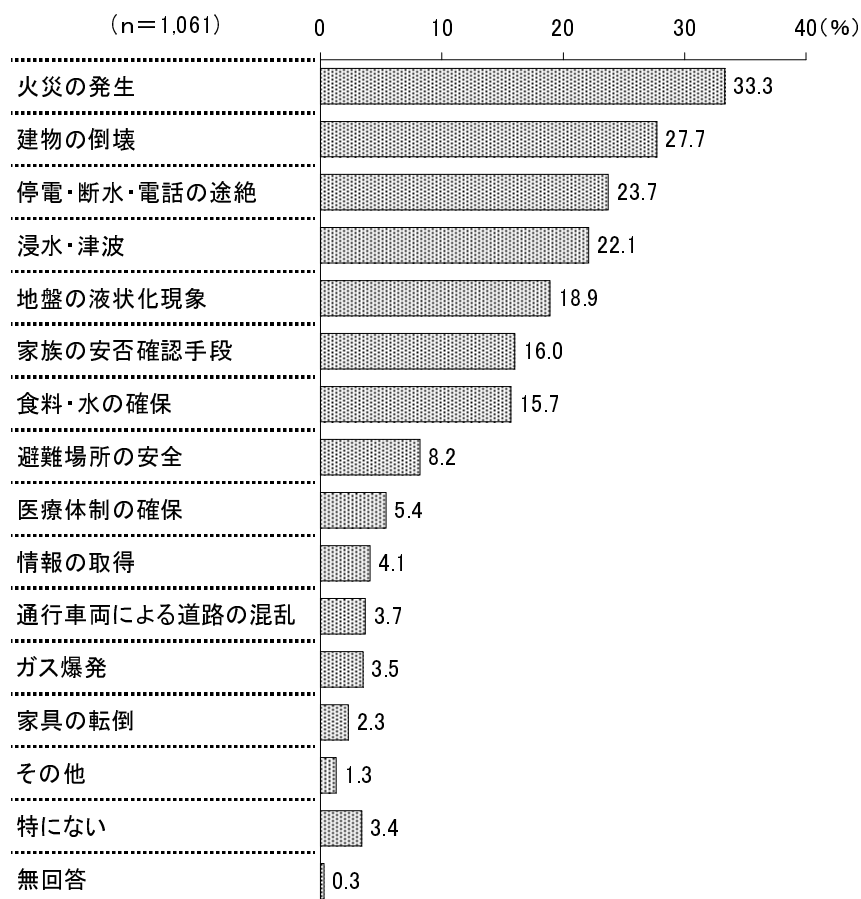
◇「火災の発生」が3割を超える

問4 今後、東京に大地震が発生した場合に、あなたが特に不安だと思うことを次の中から2つまで選んでください。(n=1,061)

1 火災の発生	33.3%	9 避難場所の安全	8.2%
2 ガス爆発	3.5%	10 家族の安否確認手段	16.0%
3 浸水・津波	22.1%	11 食料・水の確保	15.7%
4 地盤の液状化現象	18.9%	12 医療体制の確保	5.4%
5 建物の倒壊	27.7%	13 家具の転倒	2.3%
6 通行車両による道路の混乱	3.7%	14 その他	1.3%
7 停電・断水・電話の途絶	23.7%	15 特にない	3.4%
8 情報の取得	4.1%	無回答	0.3%

大地震が起きたときに特に不安だと思うことを聞いたところ、「火災の発生」(33.3%)が3割を超え最も多く、次いで「建物の倒壊」(27.7%)、「停電・断水・電話の途絶」(23.7%)、「浸水・津波」(22.1%)と続いている。(図表2-1-1)

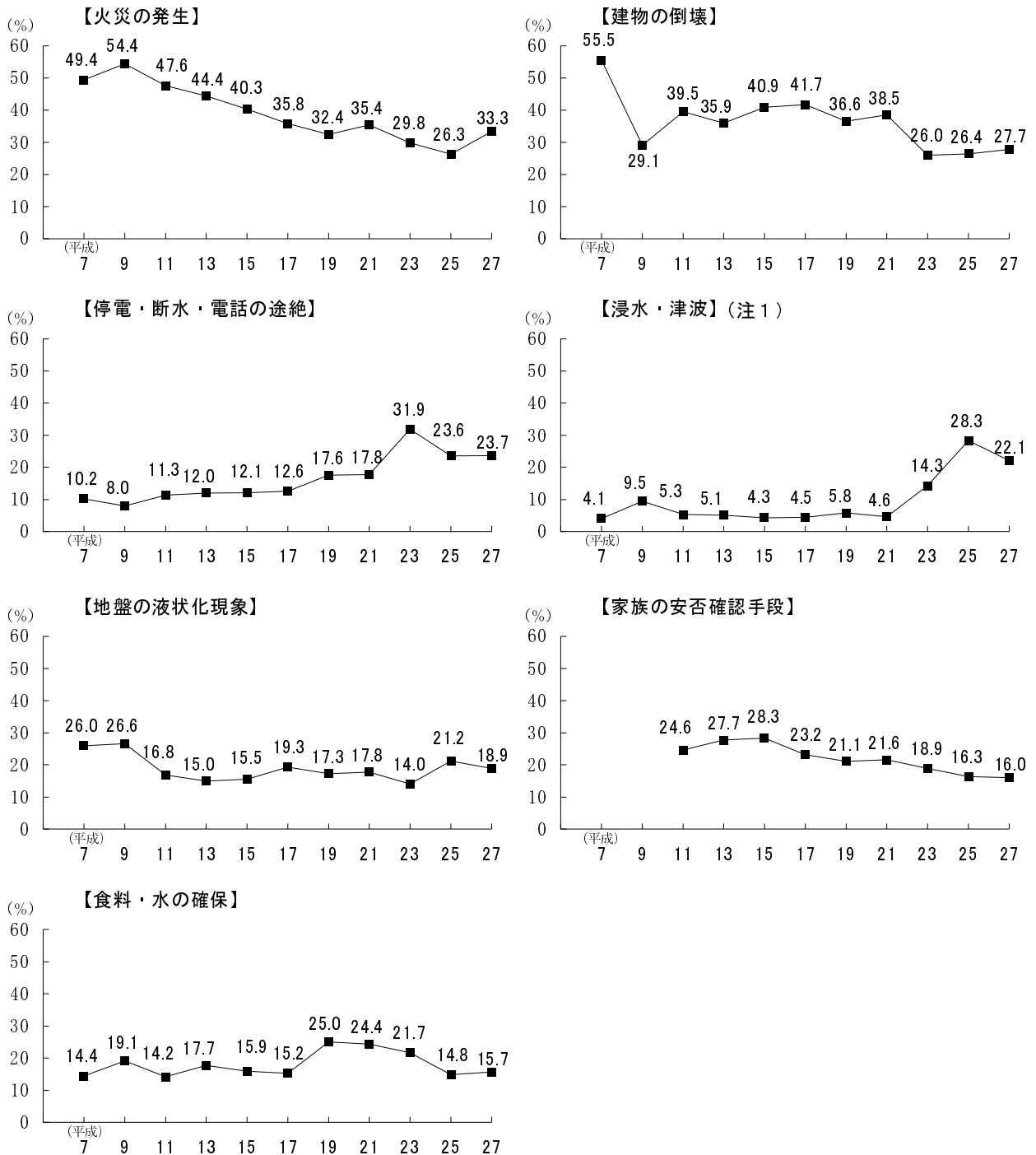
図表2-1-1 震災時の不安(複数回答)

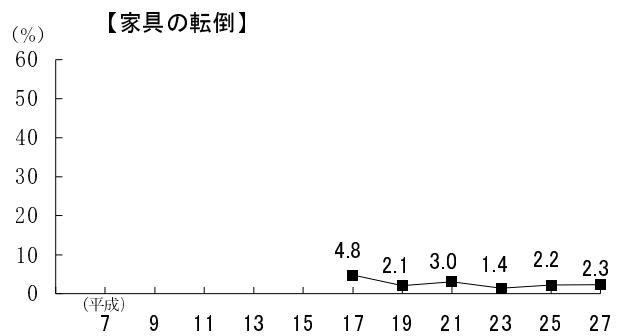
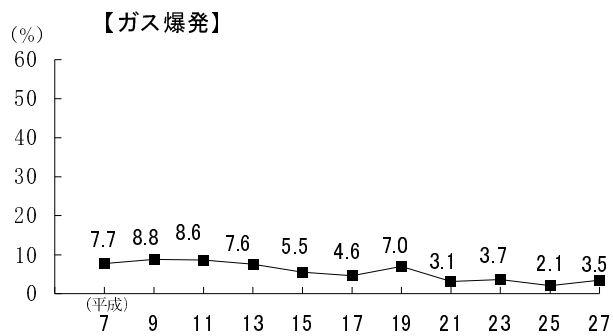
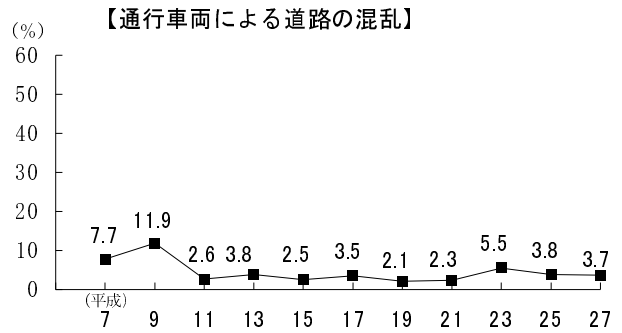
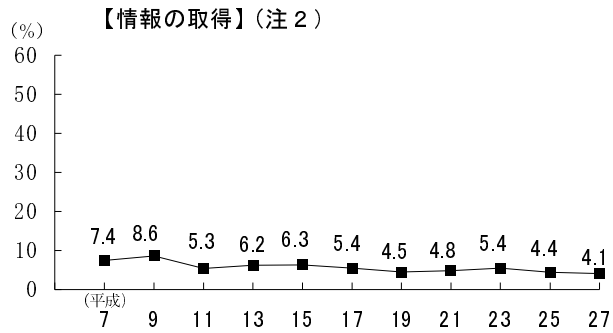
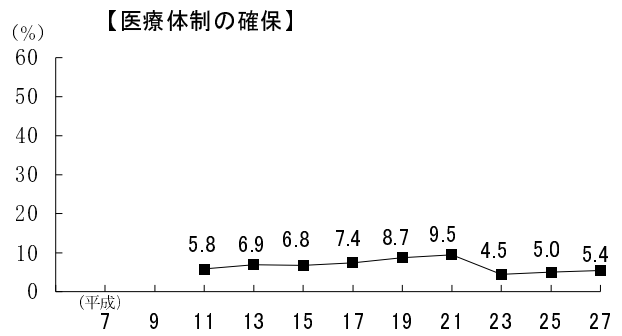
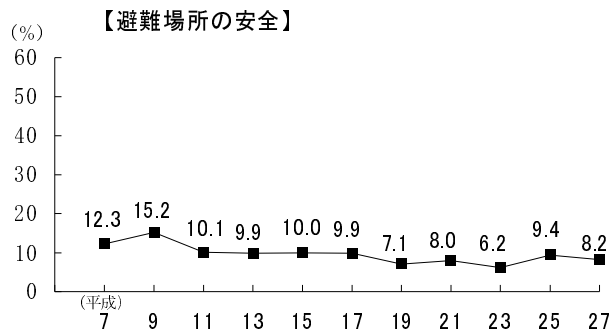


【時系列比較】

時系列の変化をみると、「火災の発生」は前回調査と比べて7ポイント高くなっている。一方、「浸水・津波」は前回調査と比べて6ポイント低くなっている。（図表2-1-2）

図表2-1-2 震災時の不安—時系列比較





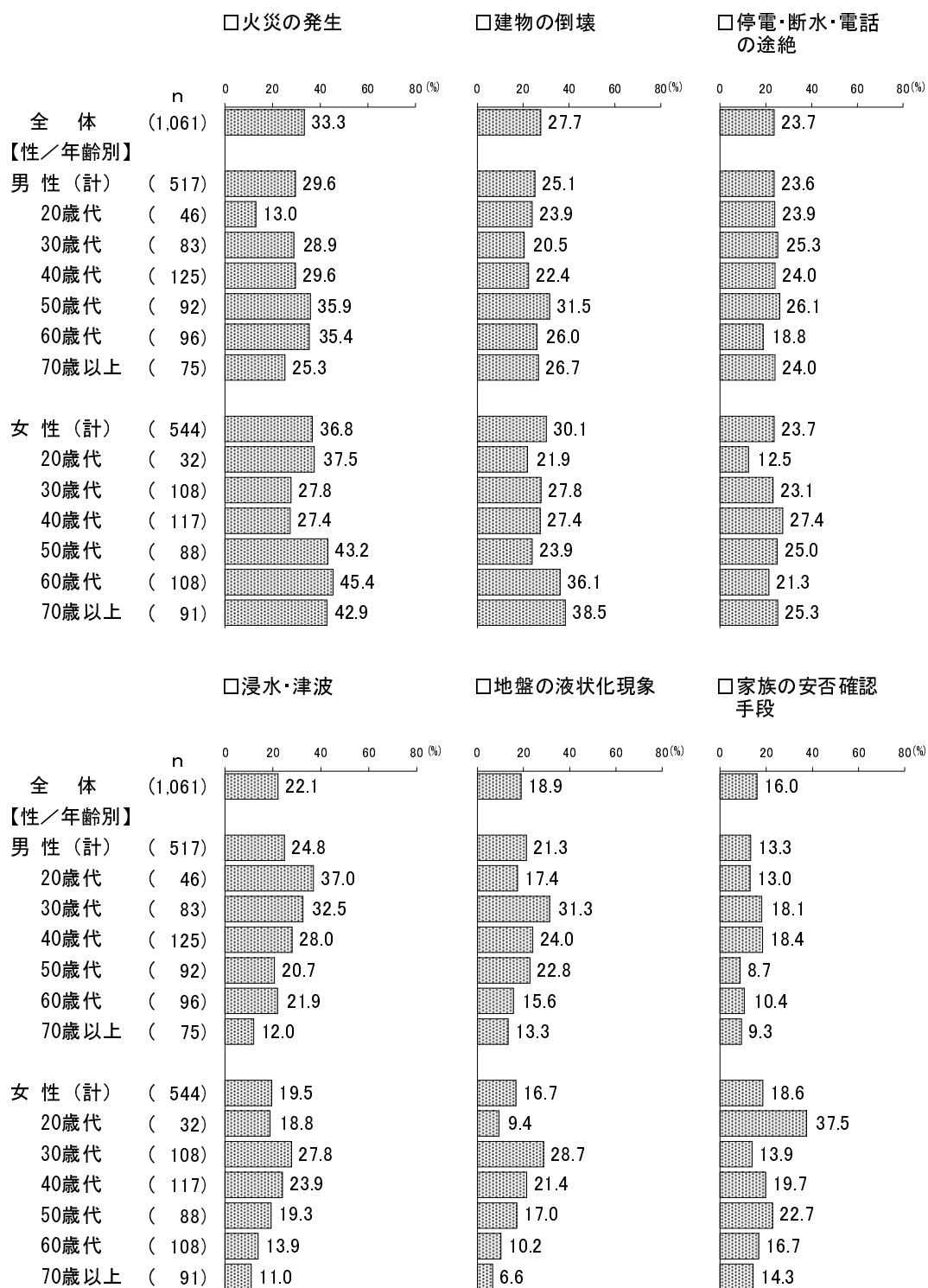
(注1) 平成21年までは「浸水」
 (注2) 平成21年までは「情報の提供」

【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「火災の発生」は女性の方が男性より7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「火災の発生」は女性の50歳以上の年代で4割台となっている。「建物の倒壊」は女性70歳以上で4割近く、「浸水・津波」は男性20歳代で4割近くとなっている。（図表2-1-3）

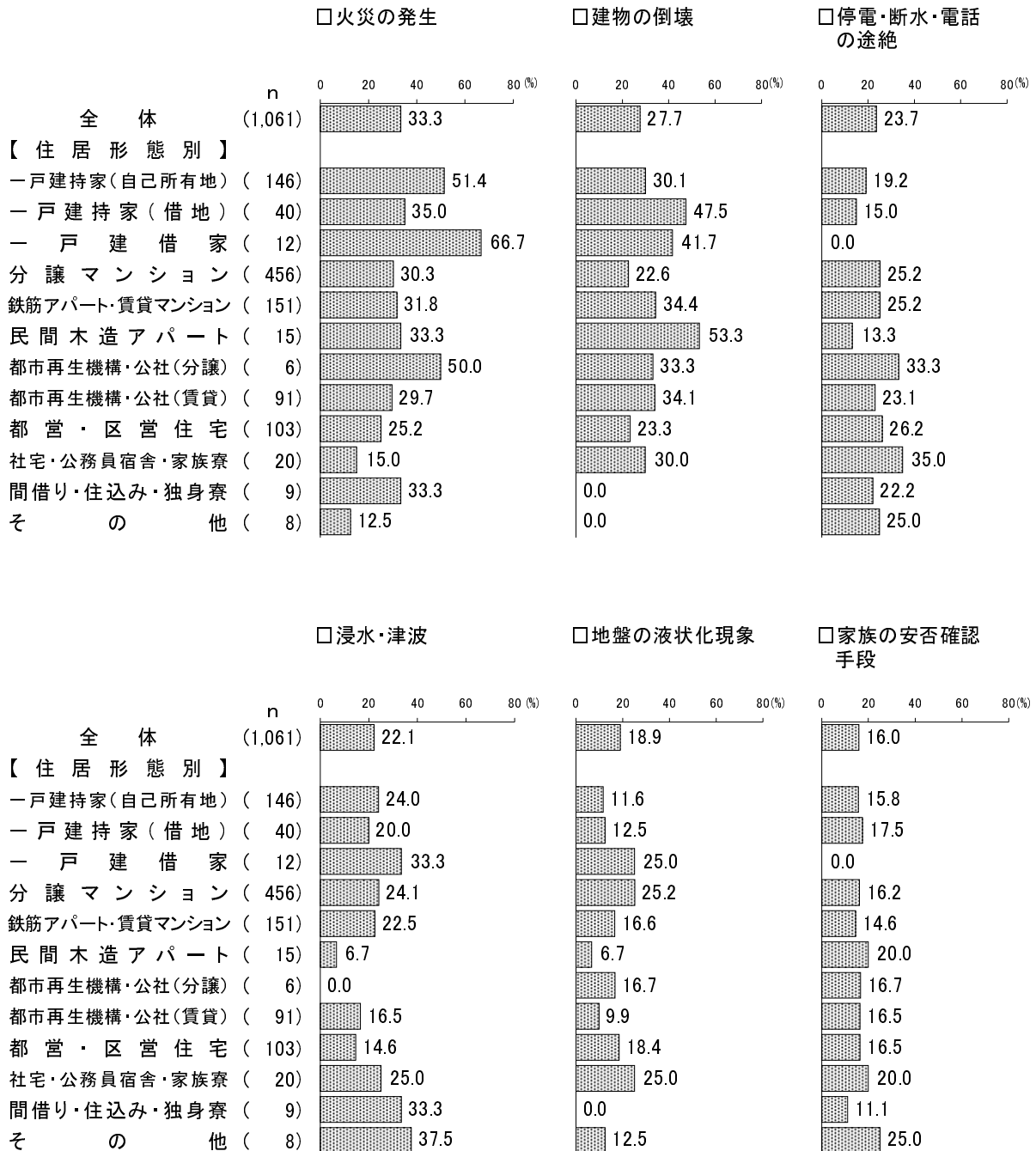
図表2-1-3 震災時の不安—性別・性／年齢別（上位6項目）



【住居形態別】

住居形態別でみると、「火災の発生」は一戸建借家で7割近く、一戸建持家（自己所有地）で5割を超えている。「建物の倒壊」は民間木造アパートで5割を超え、一戸建持家（借地）で5割近くとなっている。（図表2-1-4）

図表2-1-4 震災時の不安—住居形態別（上位6項目）



2-2 震災時の備え

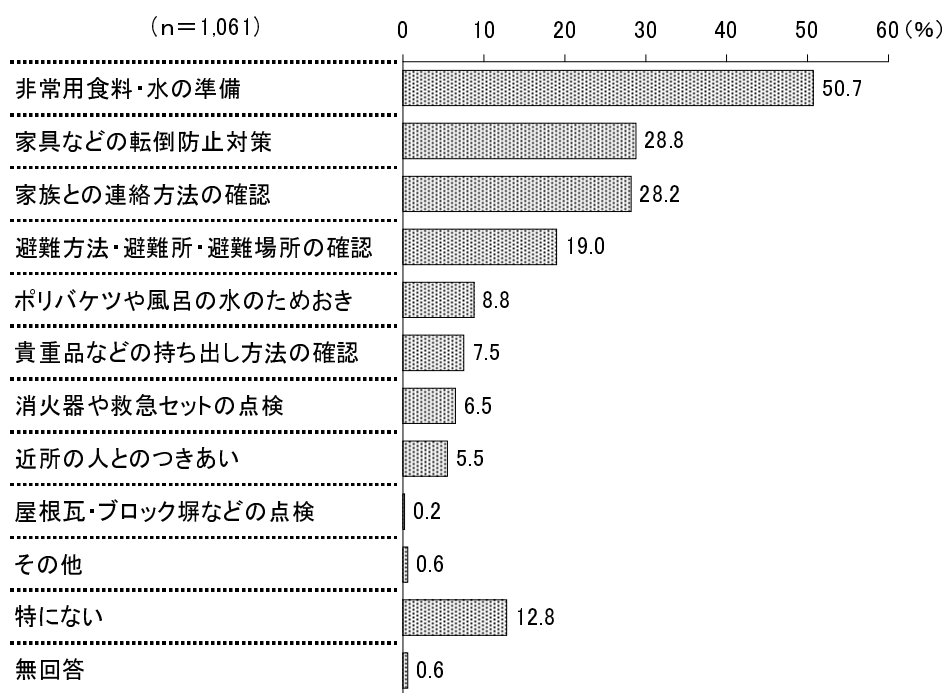
◇「非常用食料・水の準備」がほぼ5割

問5 あなたのご家庭で、大地震に備えて普段から特に心掛けていることを次の中から2つまで選んでください。(n=1,061)

1	屋根瓦・ブロック塀などの点検	0.2%	7	家族との連絡方法の確認	28.2%
2	家具などの転倒防止対策	28.8%	8	ポリバケツや風呂の水のためおき	8.8%
3	消火器や救急セットの点検	6.5%	9	近所の人とのつきあい	5.5%
4	非常用食料・水の準備	50.7%	10	その他	0.6%
5	避難方法・避難所・避難場所の確認	19.0%	11	特にない	12.8%
6	貴重品などの持ち出し方法の確認	7.5%		無回答	0.6%

大地震に備えて家庭で普段から特に心掛けていることは何か聞いたところ、「非常用食料・水の準備」(50.7%)がほぼ5割で最も多く、次いで「家具などの転倒防止対策」(28.8%)、「家族との連絡方法の確認」(28.2%)と続いている。(図表2-2-1)

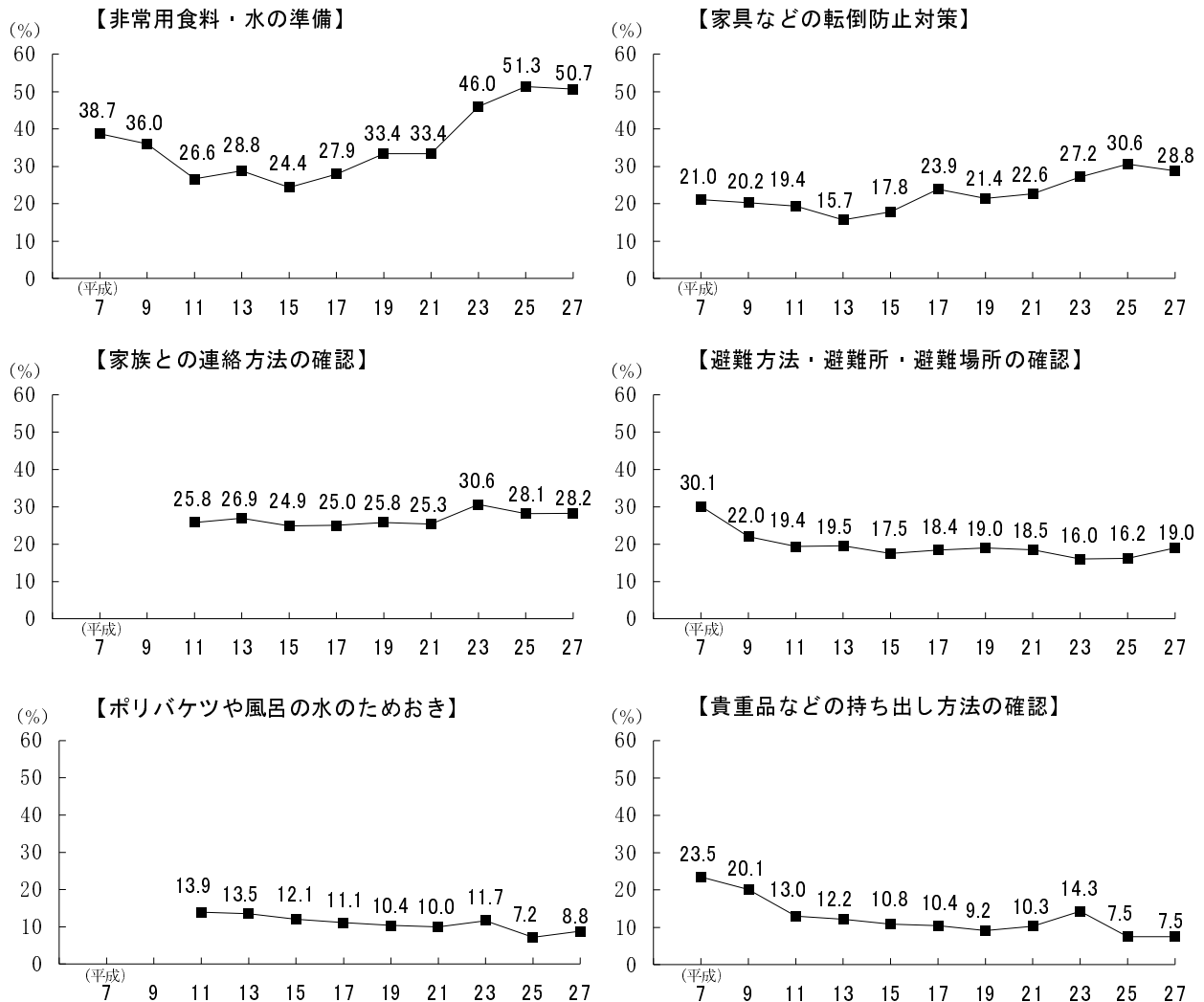
図表2-2-1 震災時の備え(複数回答)

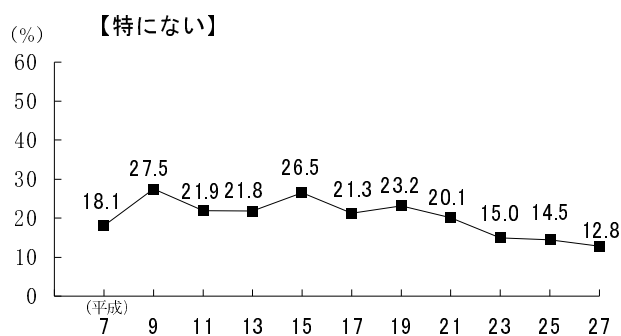
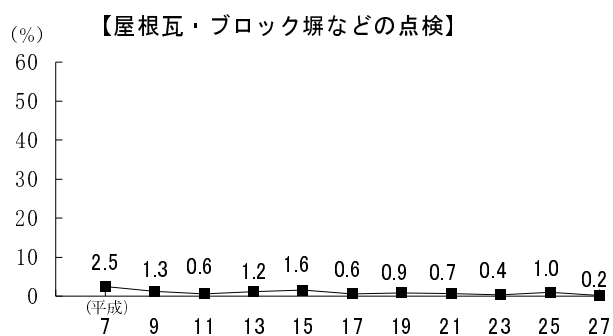
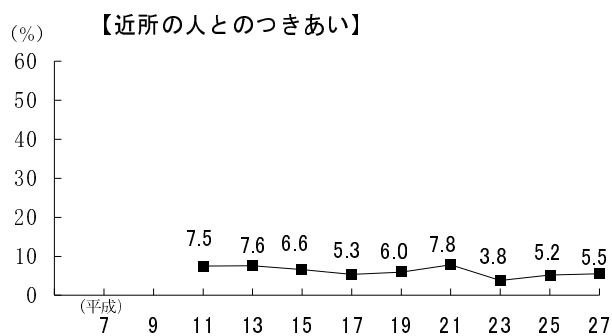
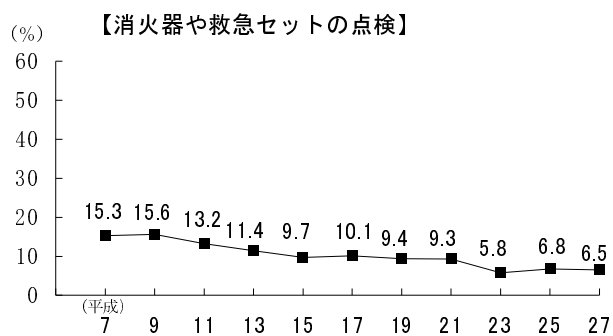


【時系列比較】

時系列の変化をみると、「避難方法・避難所・避難場所の確認」は前回調査と比べて3ポイント高くなっている。(図表2-2-2)

図表2-2-2 震災時の備え—時系列比較



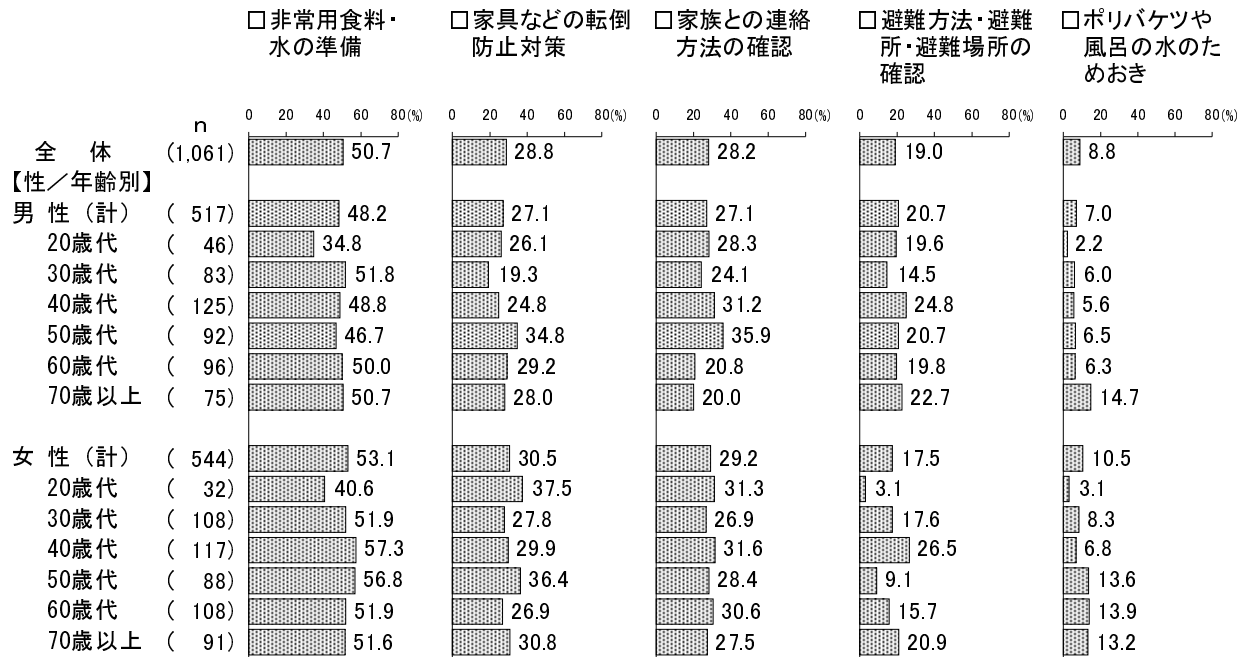


【性別・性／年齢別】

性別でみると、「非常用食料・水の準備」は女性の方が男性より5ポイント高くなっている。
 性／年齢別でみると、「非常用食料・水の準備」は女性の40歳代と50歳代で6割近くとなっている。
 「家具などの転倒防止対策」は女性20歳代で4割近くとなっている。

(図表2-2-3)

図表2-2-3 震災時の備え—性別・性／年齢別（上位5項目）

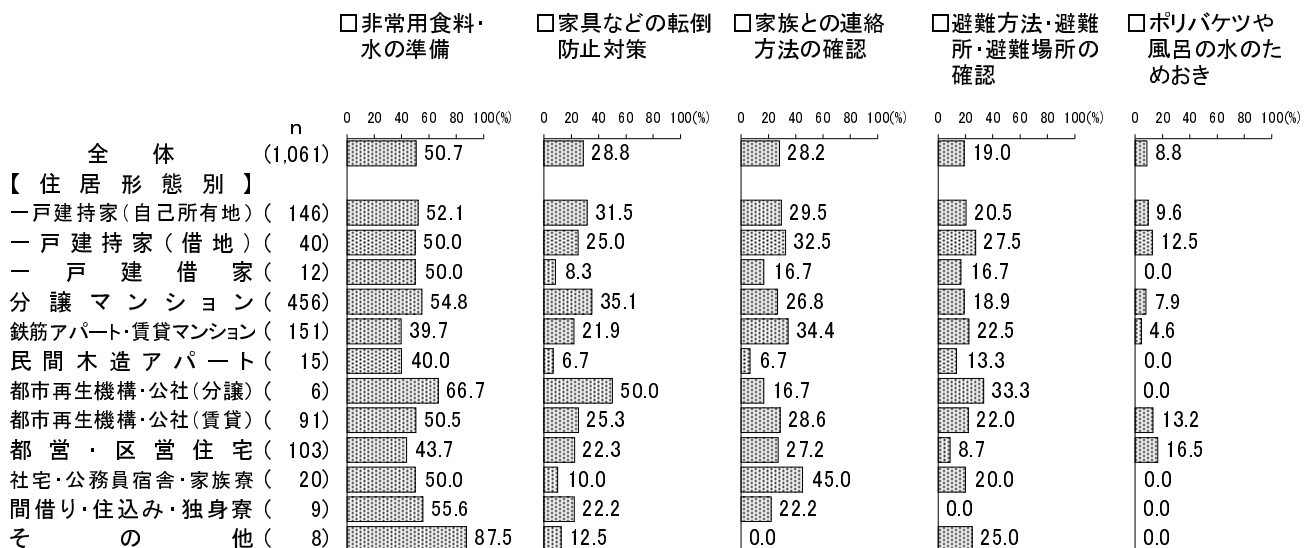


【住居形態別】

住居形態別でみると、「家具などの転倒防止対策」は分譲マンションで3割台半ば、「家族との連絡方法の確認」は社宅・公務員宿舎・家族寮で4割台半ばとなっている。

(図表2-2-4)

図表2-2-4 震災時の備え—住居形態別（上位5項目）



2-3 家庭内で準備している防災用品・用具

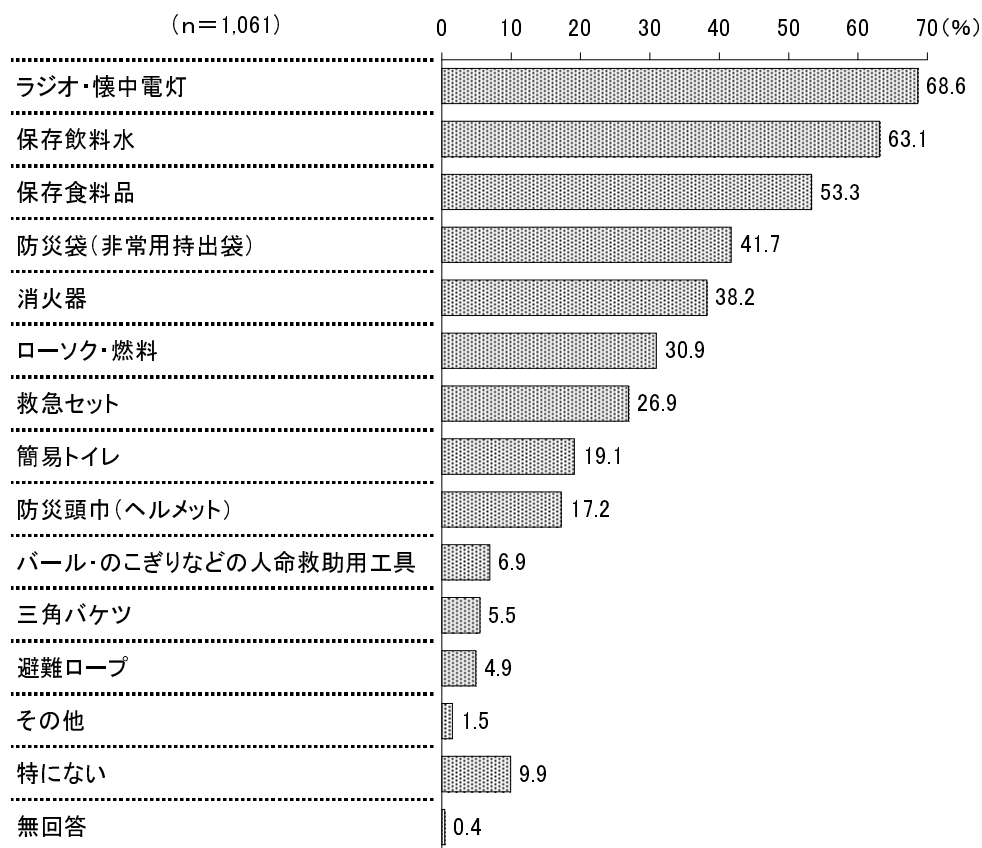
◇「ラジオ・懐中電灯」が7割近く

問6 あなたのご家庭で、災害に備えて現在準備している防災用品および用具を、次の中からすべて選んでください。(n=1,061)

1 消火器	38.2%	8 保存飲料水	63.1%
2 三角バケツ	5.5%	9 ラジオ・懐中電灯	68.6%
3 避難ロープ	4.9%	10 ローソク・燃料	30.9%
4 防災袋(非常用持出袋)	41.7%	11 バール・のこぎりなどの人命救助用工具	6.9%
5 救急セット	26.9%	12 簡易トイレ	19.1%
6 防災頭巾(ヘルメット)	17.2%	13 その他	1.5%
7 保存食料品	53.3%	14 特にない	9.9%
		無回答	0.4%

災害に備えて家庭で準備している防災用品および用具を聞いたところ、「ラジオ・懐中電灯」(68.6%)が7割近くで最も多く、次いで「保存飲料水」(63.1%)、「保存食料品」(53.3%)、「防災袋(非常用持出袋)」(41.7%)と続いている。(図表2-3-1)

図表2-3-1 家庭内で準備している防災用品・用具(複数回答)



【性別・性／年齢別】

性別でみると、男女ともに第1位から第3位までは同じ項目になっており、第3位の「保存食料品」は女性の方が男性より11ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「ラジオ・懐中電灯」は男女とも30歳代を除いたすべての年代で第1位にあげられている。「保存飲料水」は男女とも30歳代で第1位にあげられている。

(図表2-3-2)

図表2-3-2 家庭内で準備している防災用品・用具－性別・性／年齢別（上位5項目）

(%)

属性		順位	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体			1,061	ラジオ ・懐中電灯 68.6	保存飲料水 63.1	保存食料品 53.3	防災袋（非常用 持出袋） 41.7	消火器 38.2
性 別	男 性		517	ラジオ ・懐中電灯 64.4	保存飲料水 58.4	保存食料品 47.8	消火器 36.0	防災袋（非常用 持出袋） 35.6
	女 性		544	ラジオ ・懐中電灯 72.6	保存飲料水 67.6	保存食料品 58.5	防災袋（非常用 持出袋） 47.4	消火器 40.3
性 ／ 年 齢 別	男	20 歳 代	46	ラジオ ・懐中電灯 50.0	保存飲料水 45.7	保存食料品 30.4	消火器 26.1	防災袋（非常用 持出袋）／救急セット 23.9
		30 歳 代	83	保存飲料水 56.6	ラジオ ・懐中電灯 55.4	保存食料品 44.6	防災袋（非常用 持出袋） 33.7	消火器 28.9
		40 歳 代	125	ラジオ ・懐中電灯 60.0	保存飲料水 59.2	保存食料品 50.4	防災袋（非常用 持出袋） 39.2	消火器 37.6
		50 歳 代	92	ラジオ ・懐中電灯 71.7	保存飲料水 62.0	保存食料品 50.0	消火器 41.3	防災袋（非常用 持出袋） 31.5
		60 歳 代	96	ラジオ ・懐中電灯 71.9	保存飲料水 54.2	保存食料品 49.0	防災袋（非常用 持出袋） 41.7	消火器 39.6
		70歳以上	75	ラジオ ・懐中電灯 72.0	保存飲料水 68.0	保存食料品 53.3	ローソク・燃料 40.0	消火器／防災袋 （非常用持出袋） 36.0
	女	20 歳 代	32	ラジオ ・懐中電灯 53.1	保存飲料水 50.0	保存食料品 43.8	防災袋（非常用 持出袋） 40.6	消火器 34.4
		30 歳 代	108	保存飲料水 65.7	ラジオ ・懐中電灯 63.9	保存食料品 56.5	消火器 39.8	防災袋（非常用 持出袋） 35.2
		40 歳 代	117	ラジオ ・懐中電灯 73.5	保存飲料水 71.8	保存食料品 62.4	消火器 47.0	防災袋（非常用 持出袋） 44.4
		50 歳 代	88	ラジオ ・懐中電灯 68.2	保存食料品 60.2	保存飲料水 59.1	防災袋（非常用 持出袋） 44.3	消火器 40.9
		60 歳 代	108	ラジオ ・懐中電灯 80.6	保存飲料水 69.4	防災袋（非常用 持出袋） 58.3	保存食料品 53.7	ローソク・燃料 47.2
		70歳以上	91	ラジオ ・懐中電灯 83.5	保存飲料水 76.9	保存食料品 64.8	防災袋（非常用 持出袋） 58.2	ローソク・燃料 47.3

【住居形態別】

住居形態別でみると、「ラジオ・懐中電灯」は同率を含めすべての住居形態で第1位にあげられている。「保存飲料水」は一戸建持家（借地）を除き、同率を含めすべての住居形態で第2位までにあげられている。（図表2-3-3）

図表2-3-3 家庭内で準備している防災用品・用具－住居形態別（上位5項目）

(%)

属性		順位	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体			1,061	ラジオ ・懐中電灯 68.6	保存飲料水 63.1	保存食料品 53.3	防災袋（非常用 持出袋） 41.7	消火器 38.2
住 居 形 態 別	一戸建持家 （自己所有地）		146	ラジオ ・懐中電灯 70.5	保存飲料水 60.3	防災袋（非常用 持出袋） 48.6	保存食料品 47.3	消火器 38.4
	一戸建持家 （借地）		40	ラジオ ・懐中電灯 67.5	保存食料品 55.0	防災袋（非常用持出袋） ／保存飲料水 52.5		ローソク・燃料 32.5
	一戸建借家		12	ラジオ ・懐中電灯 83.3	保存飲料水 66.7	保存食料品 50.0	防災袋（非常用 持出袋） 41.7	救急セット 25.0
	分譲 マンション		456	ラジオ ・懐中電灯 70.4	保存飲料水 68.0	保存食料品 60.3	消火器 46.9	防災袋（非常用 持出袋） 46.3
	鉄筋アパ ート・賃貸マン ション		151	ラジオ ・懐中電灯 57.6	保存飲料水 55.6	保存食料品 45.0	防災袋（非常用 持出袋） 25.2	救急セット 22.5
	民間木造 アパート		15	ラジオ ・懐中電灯 53.3	保存飲料水 46.7	保存食料品 40.0	ローソク・燃料 26.7	救急セット 20.0
	都市再生 機構・公社 （分譲）		6	保存飲料水／ラジオ・懐中電灯 100.0		保存食料品 66.7	防災袋（非常用持出袋） ／ローソク・燃料 33.3	
	都市再生 機構・公社 （賃貸）		91	ラジオ ・懐中電灯 73.6	保存飲料水 69.2	保存食料品 53.8	防災袋（非常用 持出袋） 50.5	消火器 40.7
	都営・区営 住宅		103	ラジオ ・懐中電灯 72.8	保存飲料水 57.3	保存食料品 42.7	ローソク・燃料 40.8	消火器 37.9
	社宅・ 公務員宿舎・ 家族寮		20	ラジオ ・懐中電灯 75.0	保存飲料水 65.0	保存食料品 55.0	消火器／防災袋（非常用持出袋） ／ローソク・燃料 30.0	
間借り・ 住込み・ 独身寮		9	消火器／保存食料品／保存飲料水／ラジオ・懐中電灯／ローソク・燃料					22.2

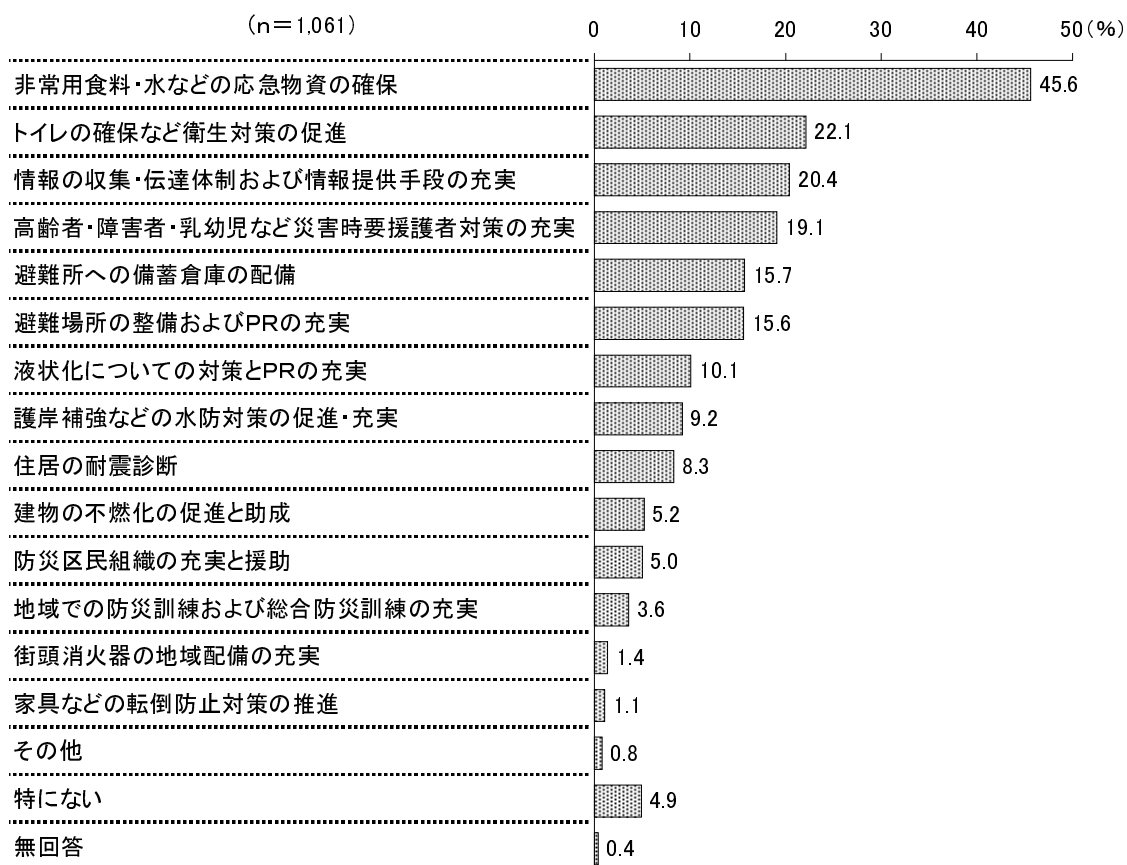
2-4 防災対策への要望

◇「非常用食料・水などの応急物資の確保」が4割台半ば

問7 あなたが、大地震の際の防災対策として、江東区に特に力を入れてほしいことを次の中から <u>2つまで</u> 選んでください。(n=1,061)					
1	非常用食料・水などの応急物資の確保	45.6%	10	液状化についての対策とPRの充実	10.1%
2	住居の耐震診断	8.3%	11	護岸補強などの水防対策の促進・充実	9.2%
3	家具などの転倒防止対策の推進	1.1%	12	避難場所の整備およびPRの充実	15.6%
4	避難所への備蓄倉庫の配備	15.7%	13	高齢者・障害者・乳幼児など災害時要援護者対策の充実	19.1%
5	防災区民組織の充実と援助	5.0%	14	トイレの確保など衛生対策の促進	22.1%
6	情報の収集・伝達体制および情報提供手段の充実	20.4%	15	その他	0.8%
7	建物の不燃化の促進と助成	5.2%	16	特になし	4.9%
8	地域での防災訓練および総合防災訓練の充実	3.6%		無回答	0.4%
9	街頭消火器の地域配備の充実	1.4%			

大地震の際の防災対策として特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「非常用食料・水などの応急物資の確保」(45.6%)が4割台半ばで最も多く、次いで「トイレの確保など衛生対策の促進」(22.1%)と続いている。(図表2-4-1)

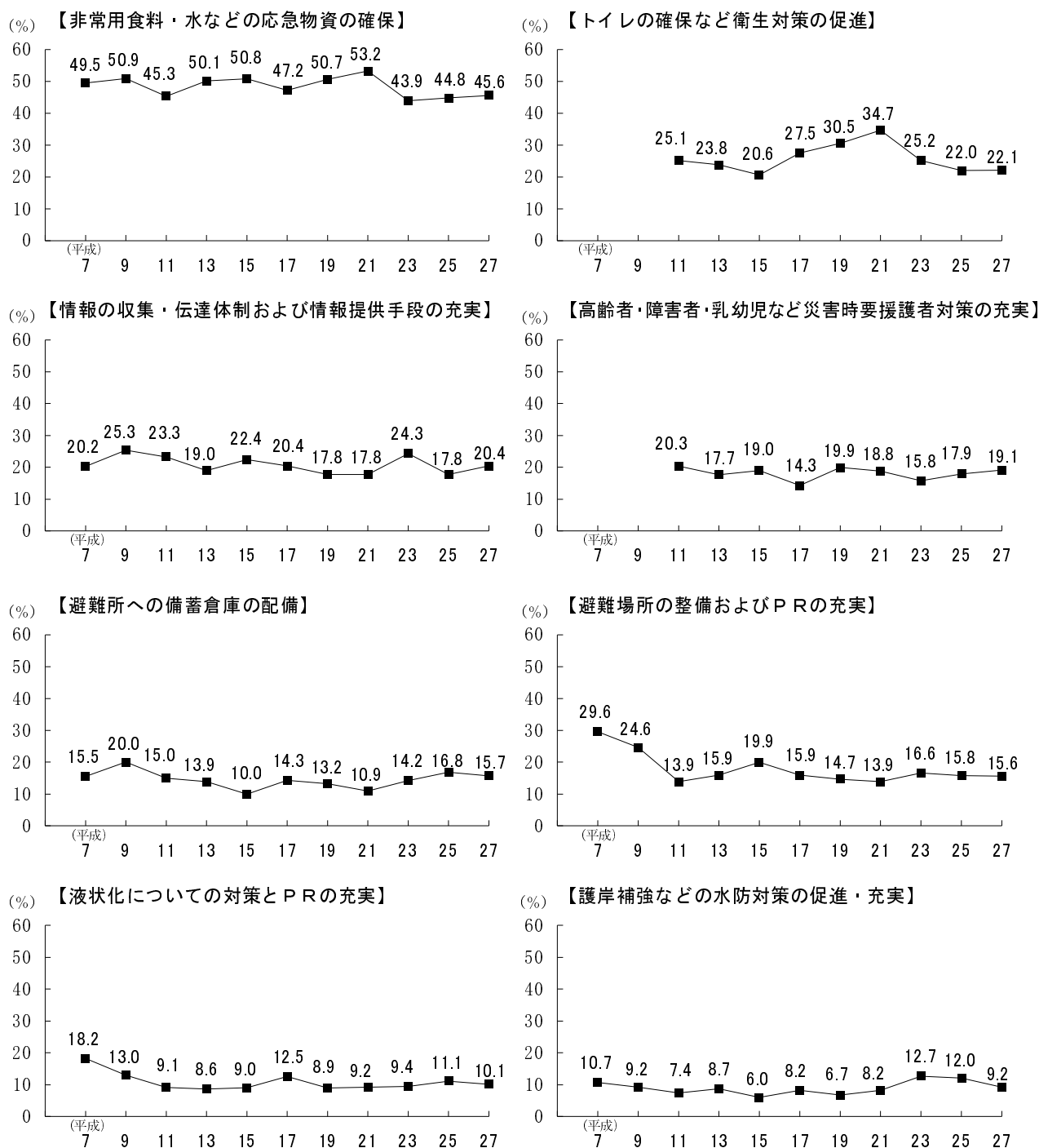
図表2-4-1 防災対策への要望(複数回答)



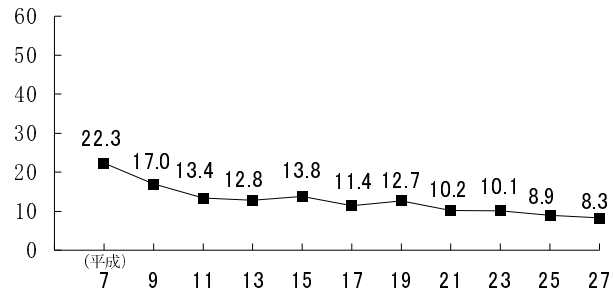
【時系列比較】

時系列の変化をみると、「情報の収集・伝達体制および情報提供手段の充実」は前回調査と比べて3ポイント高くなっている。一方、「護岸補強などの水防対策の促進・充実」は前回調査と比べて3ポイント低くなっている。（図表2-4-2）

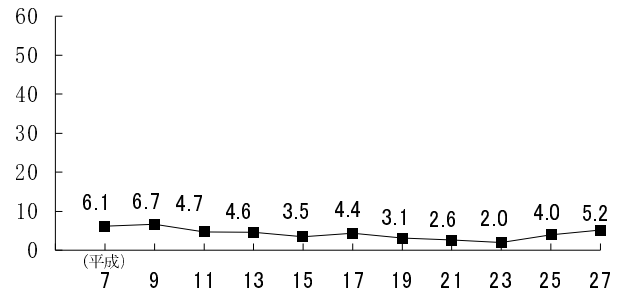
図表2-4-2 防災対策への要望—時系列比較



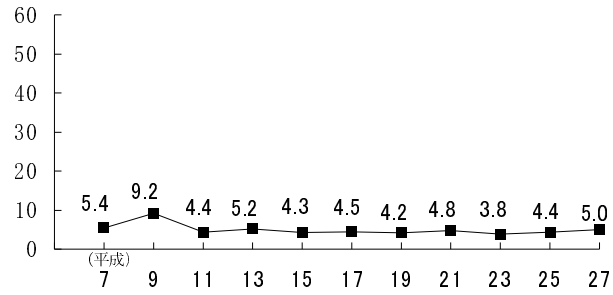
(%) 【住居の耐震診断】



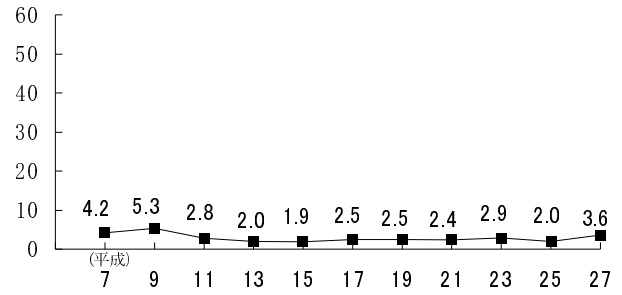
(%) 【建物の不燃化の促進と助成】



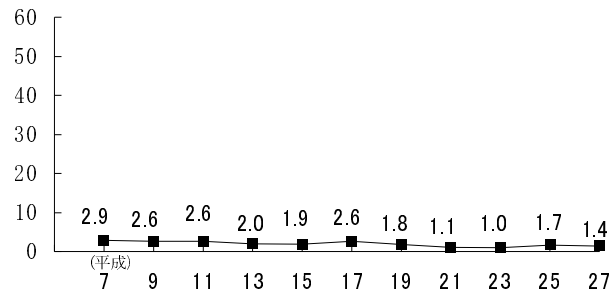
(%) 【防災区民組織の充実と援助】



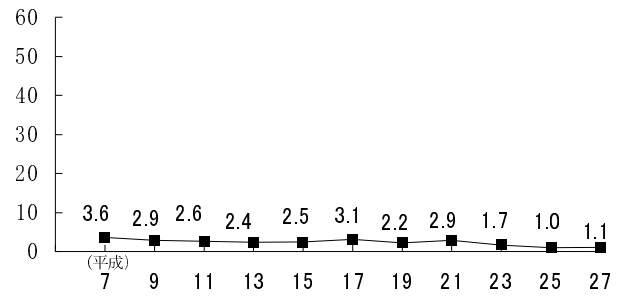
(%) 【地域での防災訓練および総合防災訓練の充実】



(%) 【街頭消火器の地域配備の充実】



(%) 【家具などの転倒防止対策の推進】

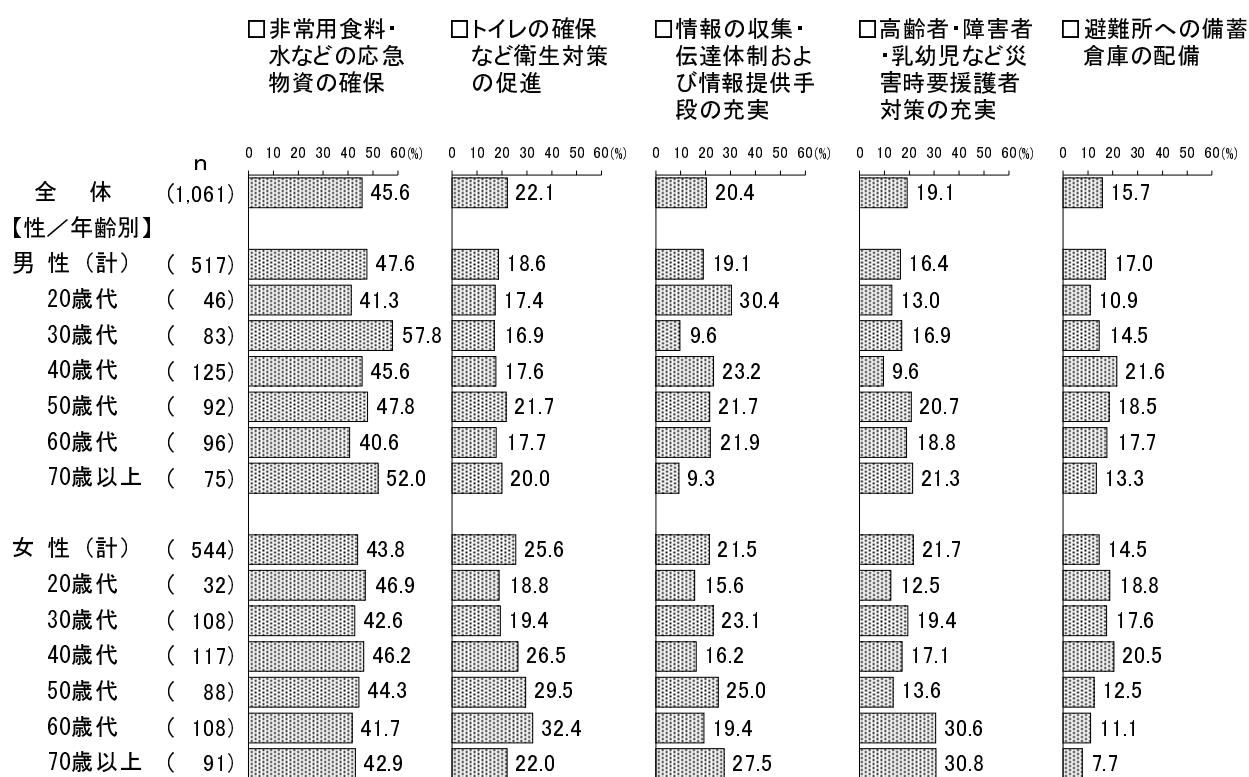


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「トイレの確保など衛生対策の促進」は女性の方が男性より7ポイント高く、「高齢者・障害者・乳幼児など災害時要援護者対策の充実」は女性の方が男性より5ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「非常用食料・水などの応急物資の確保」は男性30歳代で6割近く、男性70歳以上で5割を超えている。「トイレの確保など衛生対策の促進」は女性60歳代で3割を超えている。（図表2-4-3）

図表2-4-3 防災対策への要望－性別・性／年齢別（上位5項目）



2-5 平常時に閲覧したい防災ホームページの情報

◇「避難所・避難場所」が5割を超える

問8 本区では、防災ホームページ（「防災情報 江東区」）を公開していますが、あなたが平常時にご覧になりたい項目を次の中から3つまで選んでください。（n=1,061）

1 避難所・避難場所	53.4%	7 防災行政無線（屋外スピーカー）	13.2%
2 地震のときの避難方法	41.7%	8 区の計画（地域防災計画など）	18.0%
3 水害のときの避難方法	31.7%	9 その他	0.3%
4 家具転倒防止	3.1%	10 特になし	9.4%
5 火災予防（消火器など）	8.3%	11 インターネットを利用していない	19.2%
6 家庭での備蓄物資の用意	15.1%	無回答	0.8%

（問8で、「1」から「10」までをお答えの方に）

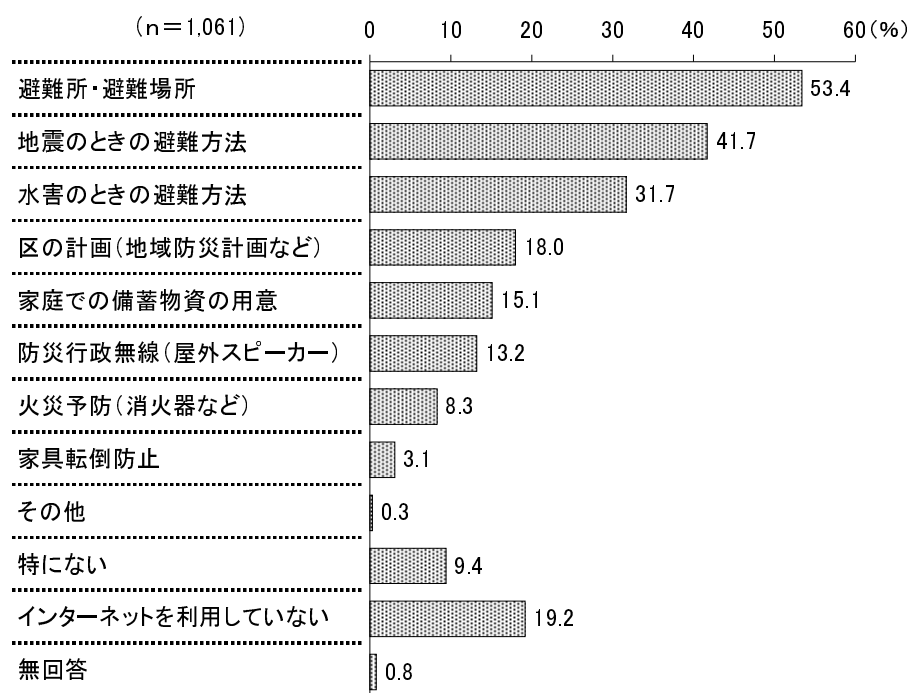
問8-1 問8のホームページで、あなたが災害時にご覧になりたい項目を次の中から3つまで選んでください。（n=848）

1 地震（余震）・気象情報	43.2%	8 二次災害の防止情報	11.4%
2 区内の被害状況	25.5%	9 公共施設の開庁情報	4.5%
3 避難所・避難場所情報	43.5%	10 被災者への支援情報	
4 ライフライン情報	58.4%	（見舞金、税の減免など）	7.8%
5 交通機関情報	16.9%	11 その他	0.2%
6 医療情報	23.8%	12 特になし	4.6%
7 支援物資などの情報	31.6%	無回答	1.8%

(1) 平常時に閲覧したい防災ホームページの情報

平常時に閲覧したい防災ホームページの情報を聞いたところ、「避難所・避難場所」(53.4%)が5割を超え最も多く、次いで「地震のときの避難方法」(41.7%)、「水害のときの避難方法」(31.7%)と続いている。(図表2-5-1)

図表2-5-1 平常時に閲覧したい防災ホームページの情報(複数回答)



【性別・性／年齢別】

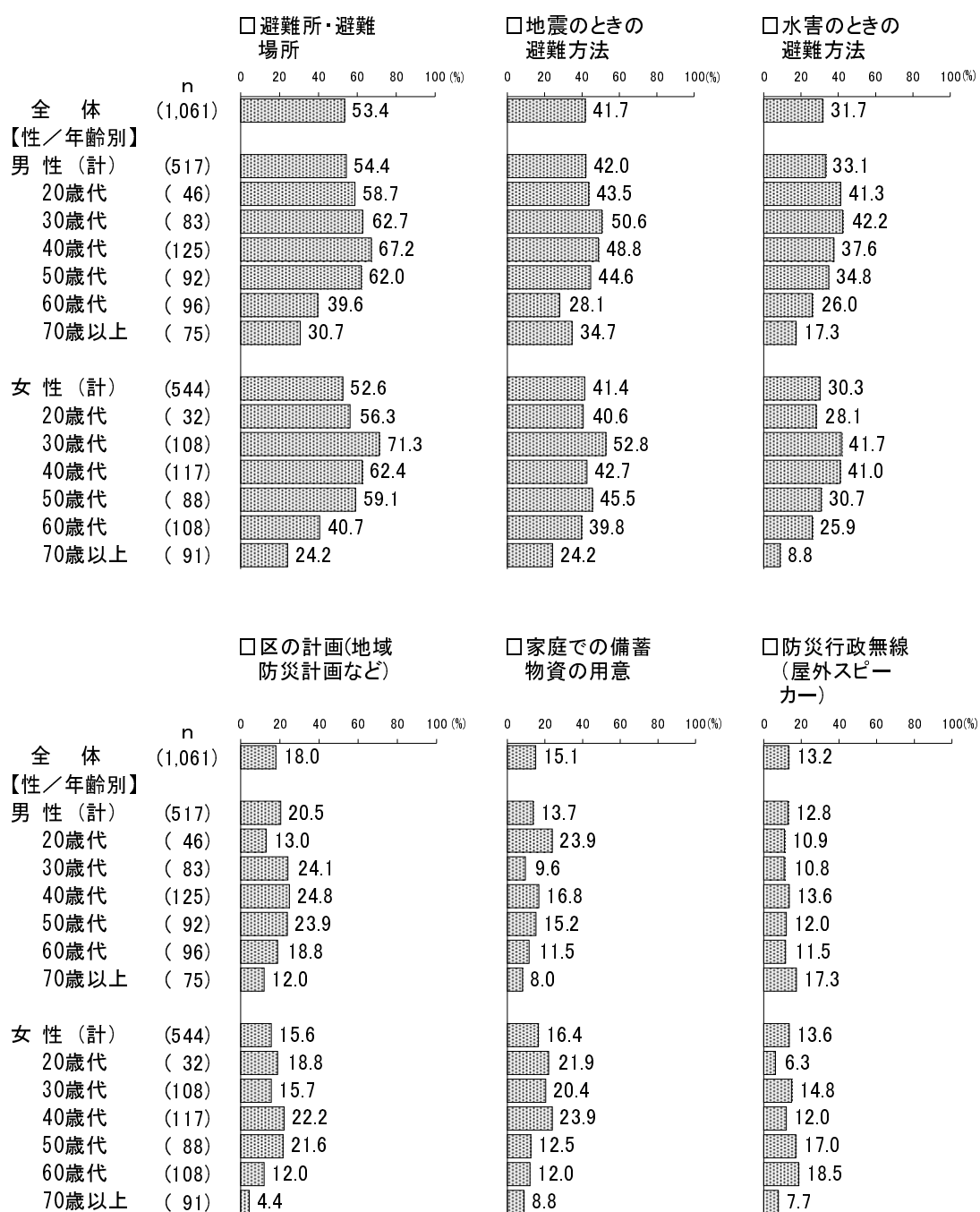
性別で見ると、「区の計画（地域防災計画など）」は男性の方が女性より5ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「避難所・避難場所」は女性30歳代で7割を超え、男性40歳代で7割近くとなっている。「地震のときの避難方法」は男女とも30歳代で5割台となっている。

(図表2-5-2)

図表2-5-2 平常時に閲覧したい防災ホームページの情報

－性別・性／年齢別（上位6項目）

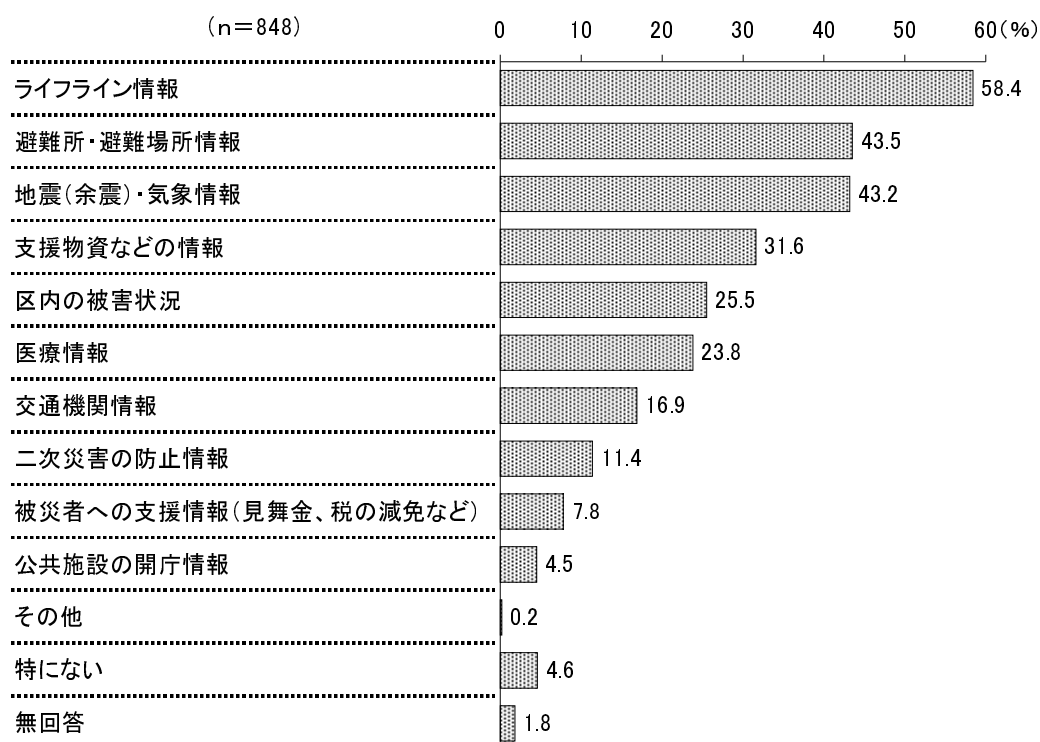


(2) 災害時に閲覧したい防災ホームページの情報

◇「ライフライン情報」が6割近く

災害時に閲覧したい防災ホームページの情報を聞いたところ、「ライフライン情報」(58.4%)が6割近くで最も多く、次いで「避難所・避難場所情報」(43.5%)、「地震(余震)・気象情報」(43.2%)と続いている。(図表2-5-3)

図表2-5-3 災害時に閲覧したい防災ホームページの情報(複数回答)



【性別・性／年齢別】

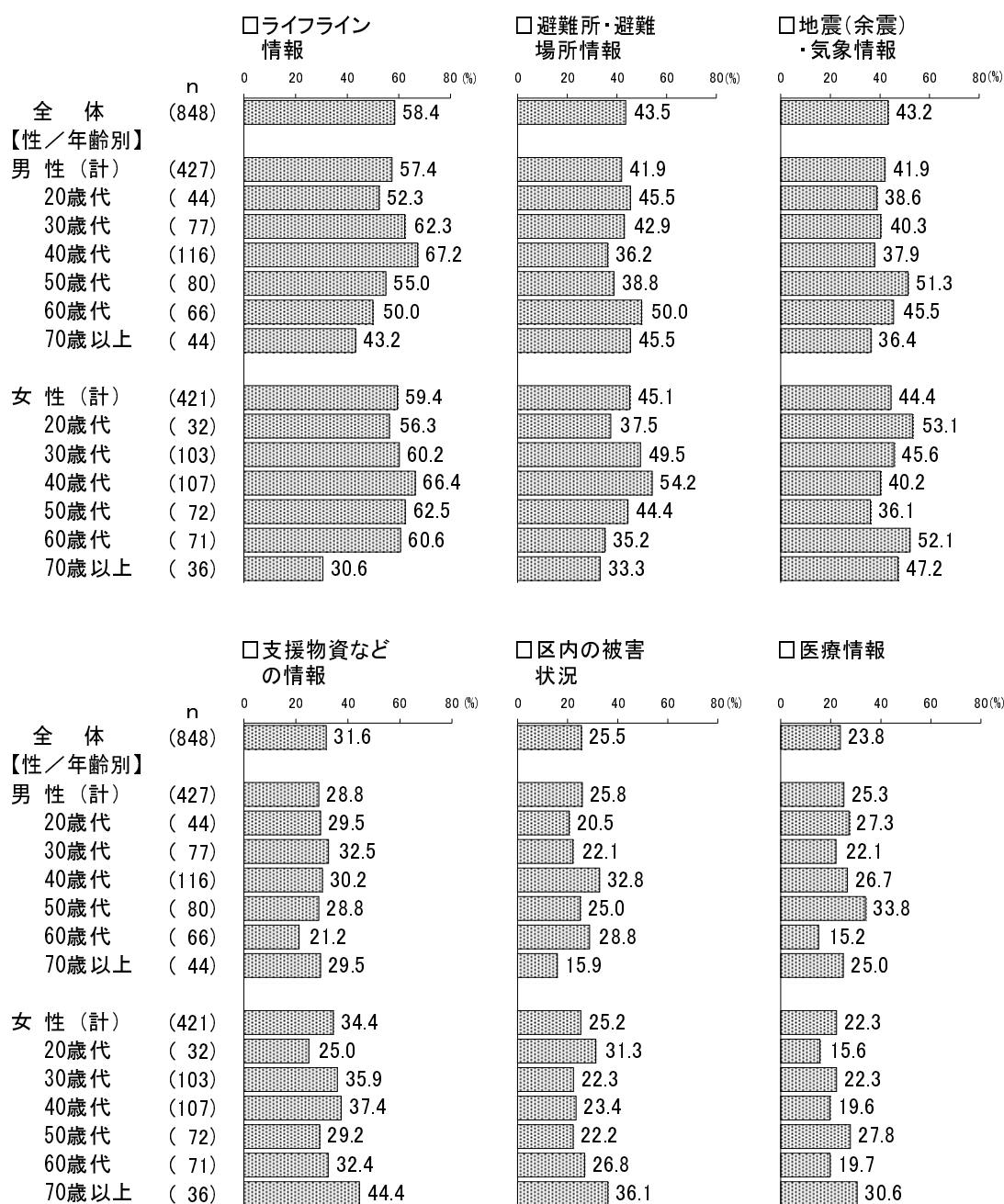
性別で見ると、「支援物資などの情報」は女性の方が男性より6ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「ライフライン情報」は男性40歳代で7割近く、女性40歳代で6割台半ばとなっている。「避難所・避難場所情報」は女性40歳代で5割台半ばとなっている。

(図表2-5-4)

図表2-5-4 災害時に閲覧したい防災ホームページの情報

－性別・性／年齢別（上位6項目）



2-6 入手しやすい緊急情報

◇「防災行政無線（屋外スピーカー）」が7割台半ば

問9 区内に災害による危険が迫り、避難の必要がある場合には、区から「避難勧告」などが発令されます。

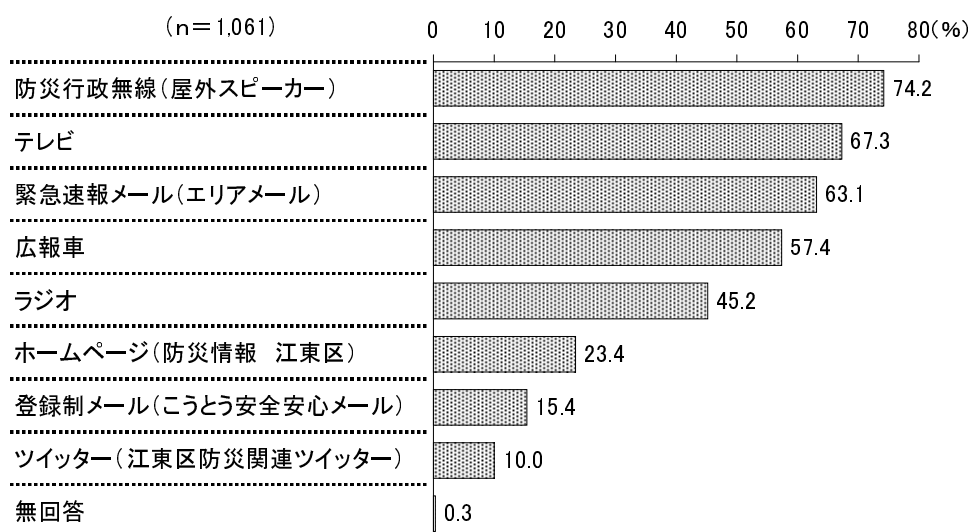
本区では、以下の方法でこれらの情報を伝達することを予定していますが、あなたが実際に避難勧告などの緊急情報を受け取る場合、どの方法が入手しやすいと感じますか。次の中から5つまで選んでください。（n=1,061）

1	防災行政無線（屋外スピーカー）	74.2%
2	テレビ	67.3%
3	ラジオ	45.2%
4	広報車	57.4%
5	ホームページ（防災情報 江東区）	23.4%
6	緊急速報メール（エリアメール）	63.1%
7	登録制メール（こうとう安全安心メール）	15.4%
8	ツイッター（江東区防災関連ツイッター）	10.0%
	無回答	0.3%

災害による危険が迫った際に入手しやすい緊急情報を聞いたところ、「防災行政無線（屋外スピーカー）」（74.2%）が7割台半ばで最も多く、次いで「テレビ」（67.3%）、「緊急速報メール（エリアメール）」（63.1%）、「広報車」（57.4%）と続いている。

（図表2-6-1）

図表2-6-1 入手しやすい緊急情報（複数回答）

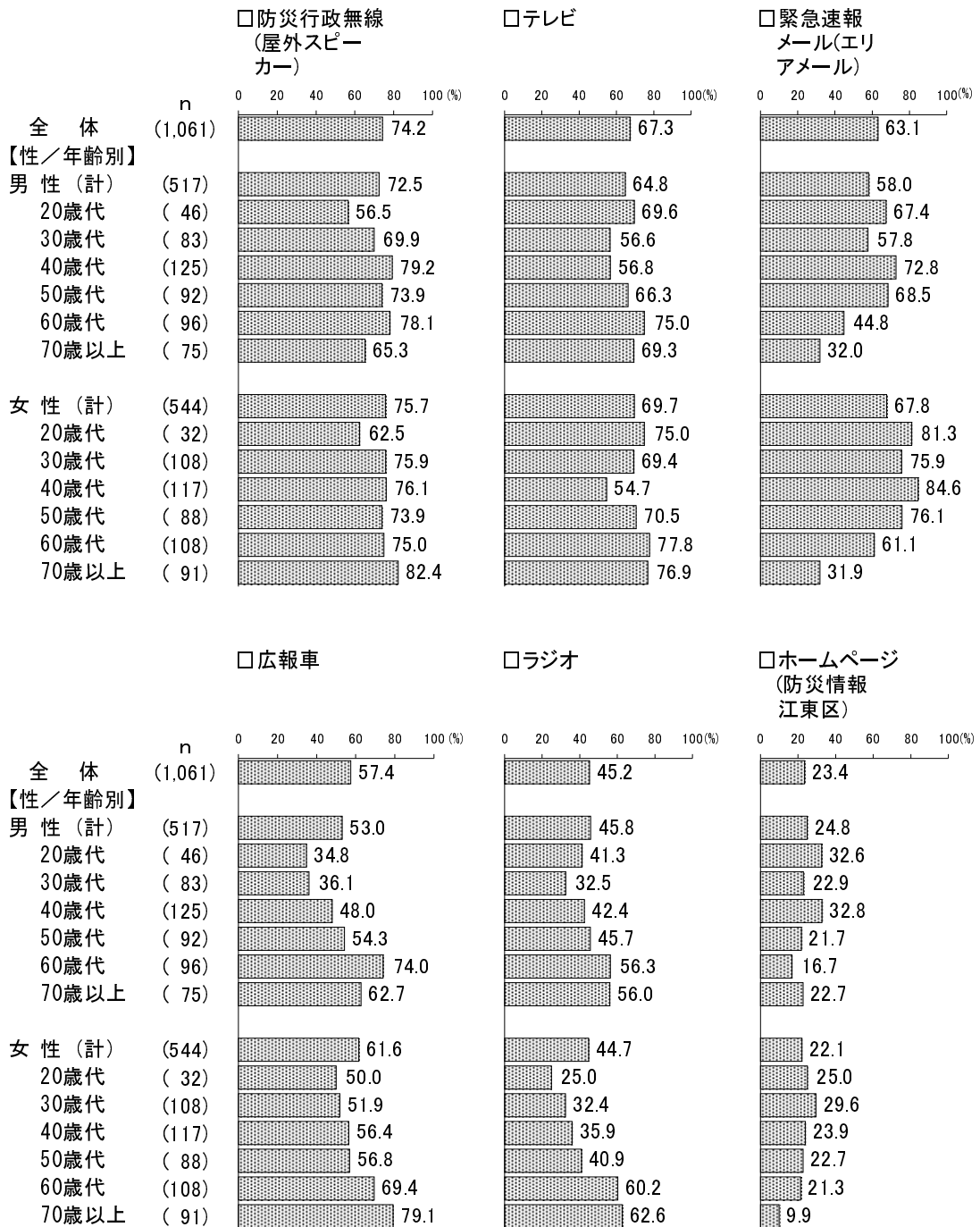


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「緊急速報メール（エリアメール）」は女性の方が男性より 10 ポイント高く、「広報車」は女性の方が男性より 9 ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「防災行政無線（屋外スピーカー）」は女性 70 歳以上で 8 割を超えている。「緊急速報メール（エリアメール）」は女性の 20 歳代と 40 歳代で 8 割台、「広報車」は女性 70 歳以上でほぼ 8 割となっている。（図表 2-6-2）

図表 2-6-2 入手しやすい緊急情報－性別・性／年齢別（上位 6 項目）



3 男女共同参画

3-1 夫婦間の家事の役割分担

3 男女共同参画

3-1 夫婦間の家事の役割分担

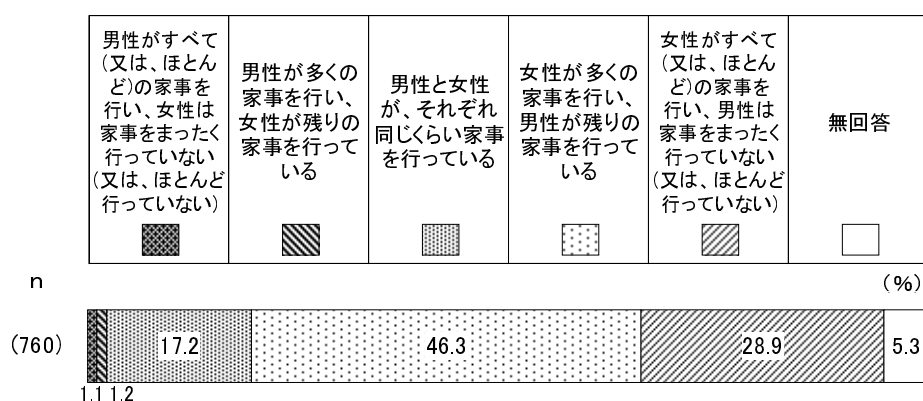
◇「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」が4割台半ば

問 10 夫婦間の家事の役割分担について、もっとも近いものを次の中から1つだけ選んでください。(n=760)

1	男性がすべて（又は、ほとんど）の家事を行い、 女性は家事をまったく行っていない（又は、ほとんど行っていない）	1.1%
2	男性が多くの家事を行い、女性が残りの家事を行っている	1.2%
3	男性と女性が、それぞれ同じくらい家事を行っている	17.2%
4	女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている	46.3%
5	女性がすべて（又は、ほとんど）の家事を行い、 男性は家事をまったく行っていない（又は、ほとんど行っていない）	28.9%
	無回答	5.3%

夫婦間の家事の役割分担について聞いたところ、「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」（46.3%）が4割台半ばで最も多く、次いで「女性がすべて（又は、ほとんど）の家事を行い、男性は家事をまったく行っていない（又は、ほとんど行っていない）」（28.9%）、「男性と女性が、それぞれ同じくらい家事を行っている」（17.2%）と続いている。（図表3-1-1）

図表3-1-1 夫婦間の家事の役割分担

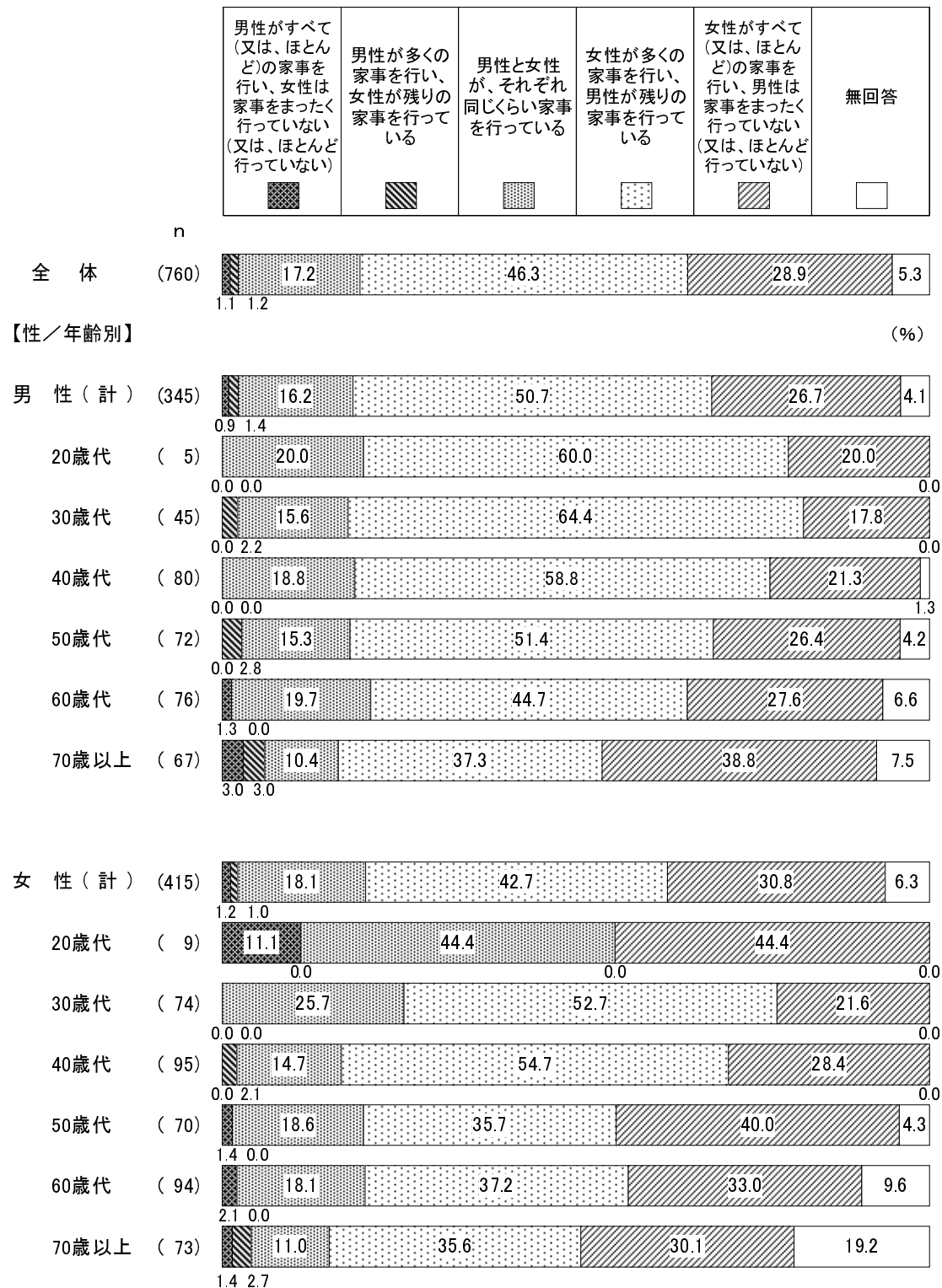


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」は男性の方が女性より8ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」は男性30歳代で6割台半ばとなっている。「女性がすべて（又は、ほとんど）の家事を行い、男性は家事をまったく行っていない（又は、ほとんど行っていない）」は女性50歳代で4割となっている。（図表3-1-2）

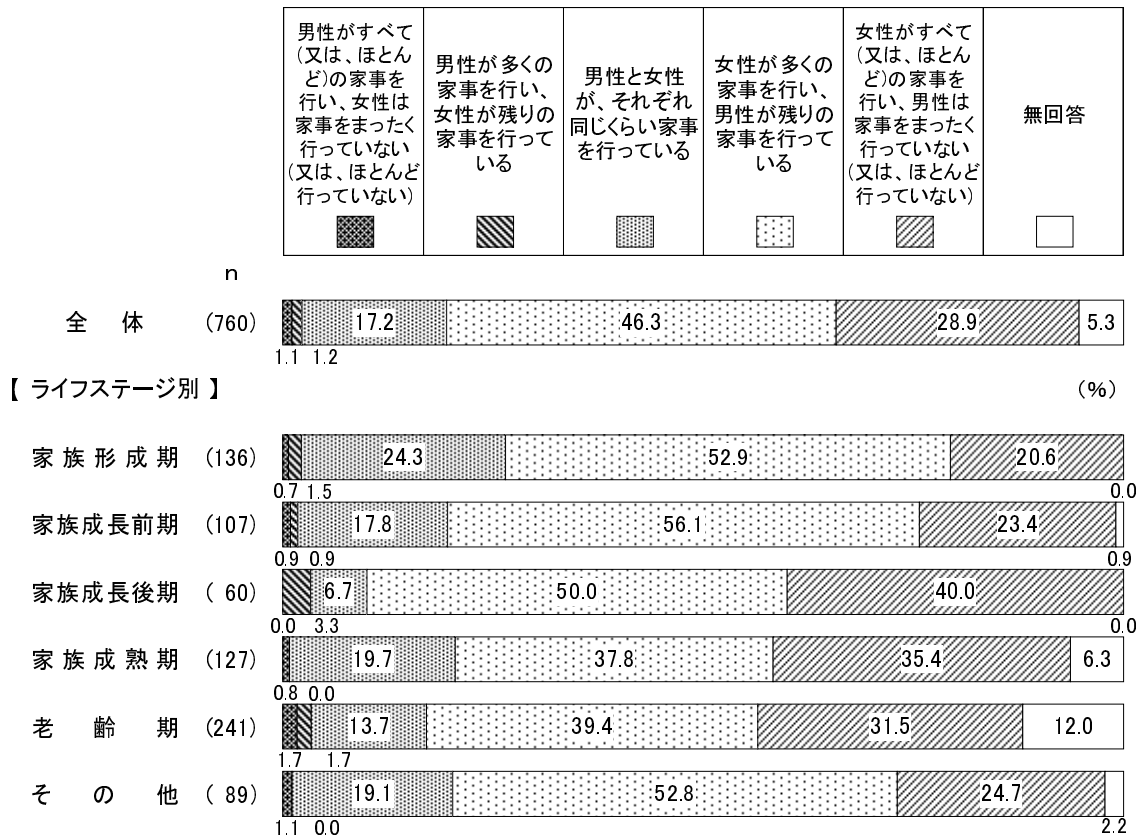
図表3-1-2 夫婦間の家事の役割分担—性別・性／年齢別



【ライフステージ別】

ライフステージ別でみると、「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」は家族成長前期で5割台半ばとなっている。「女性がすべて（又は、ほとんど）の家事を行い、男性は家事をまったく行っていない（又は、ほとんど行っていない）」は家族成長後期で4割、「男性と女性が、それぞれ同じくらい家事を行っている」は家族形成期で2割台半ばとなっている。（図表3-1-3）

図表3-1-3 夫婦間の家事の役割分担－ライフステージ別



4 ごみ・リサイクル

4-1 ごみを減らす活動の取り組み状況

4 ごみ・リサイクル

4-1 ごみを減らす活動の取り組み状況

◇《取り組んでいる》は7割台半ば

問11 あなたは、日頃ごみを減らす活動にどのくらい取り組んでいますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=1,061)

1 積極的に取り組んでいる	17.9%	3 あまり取り組んでいない	21.8%
2 ある程度取り組んでいる	56.6%	4 まったく取り組んでいない	3.0%
		無回答	0.7%

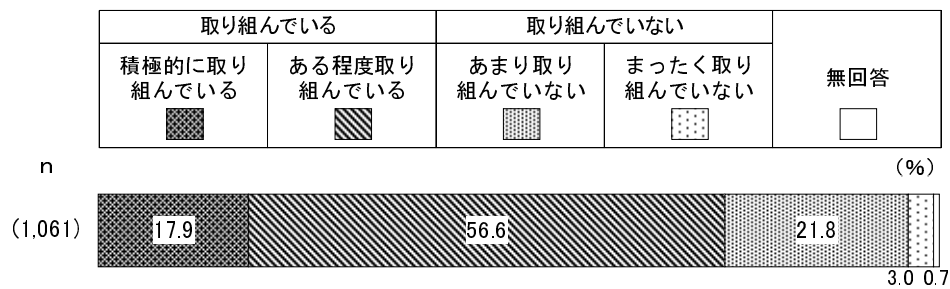
(問11で、「1 積極的に取り組んでいる」か「2 ある程度取り組んでいる」とお答えの方に)
問11-1 あなたは、ごみを減らすために、どのような取り組みをなさっていますか。
次の中から該当するものをすべて選んでください。(n=791)

1 家具や電気製品は修理してできるだけ長く使っている	41.3%
2 買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている	73.8%
3 使い捨て商品は使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびん を利用している	54.6%
4 生ごみは水切りしたり、生ごみ処理器やコンポストを利用して堆肥化 したりしている	32.1%
5 スーパーなどの店頭回収やバザー・フリーマーケットなどを利用して、 地域のリサイクル活動に協力している	25.9%
6 区役所の資源回収に出している	54.9%
7 その他	3.7%
無回答	0.1%

(1) ごみを減らす活動の取り組み状況

日頃ごみを減らす活動にどのくらい取り組んでいるか聞いたところ、「積極的に取り組んでいる」(17.9%)と「ある程度取り組んでいる」(56.6%)の2つを合わせた《取り組んでいる》(74.5%)は7割台半ばとなっている。一方、「あまり取り組んでいない」(21.8%)と「まったく取り組んでいない」(3.0%)の2つを合わせた《取り組んでいない》(24.8%)は2割台半ばとなっている。(図表4-1-1)

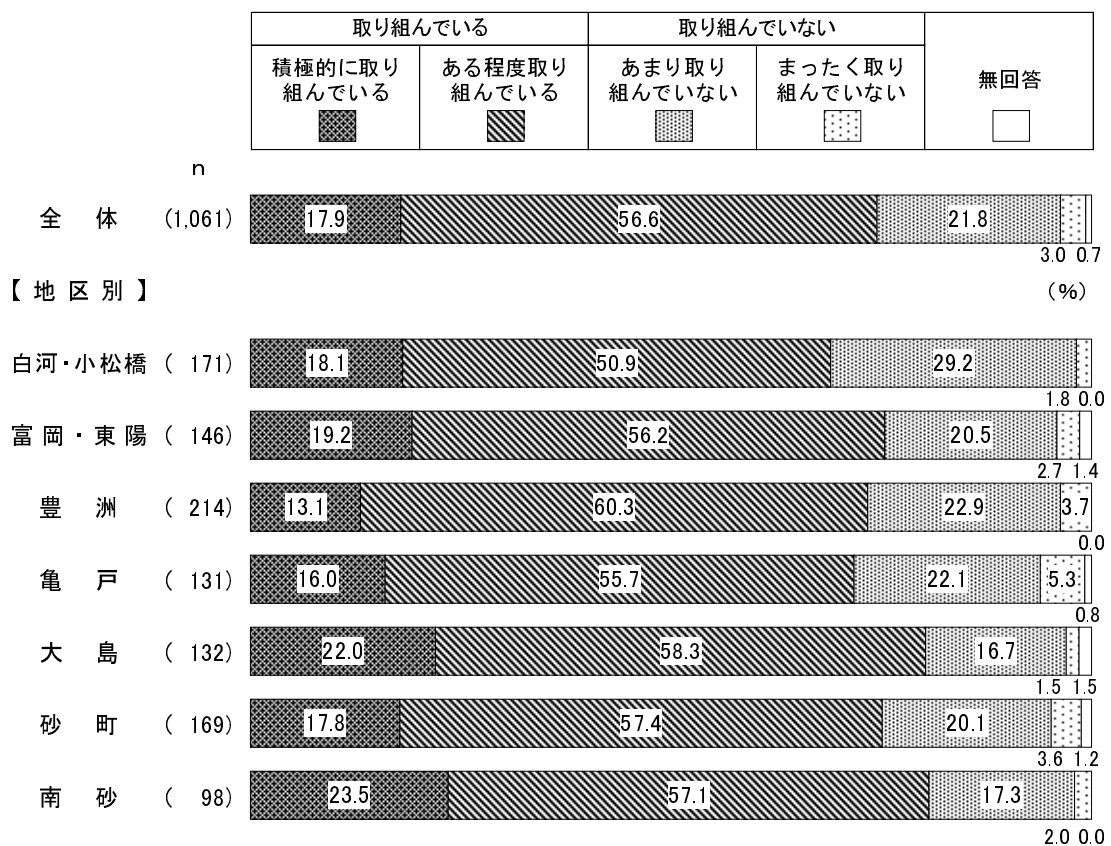
図表4-1-1 ごみを減らす活動の取り組み状況



【地区別】

地区別で見ると、《取り組んでいる》は【南砂】地区と【大島】地区で8割台となっている。一方、《取り組んでいない》は【白河・小松橋】地区で3割を超えている。(図表4-1-2)

図表4-1-2 ごみを減らす活動の取り組み状況-地区別

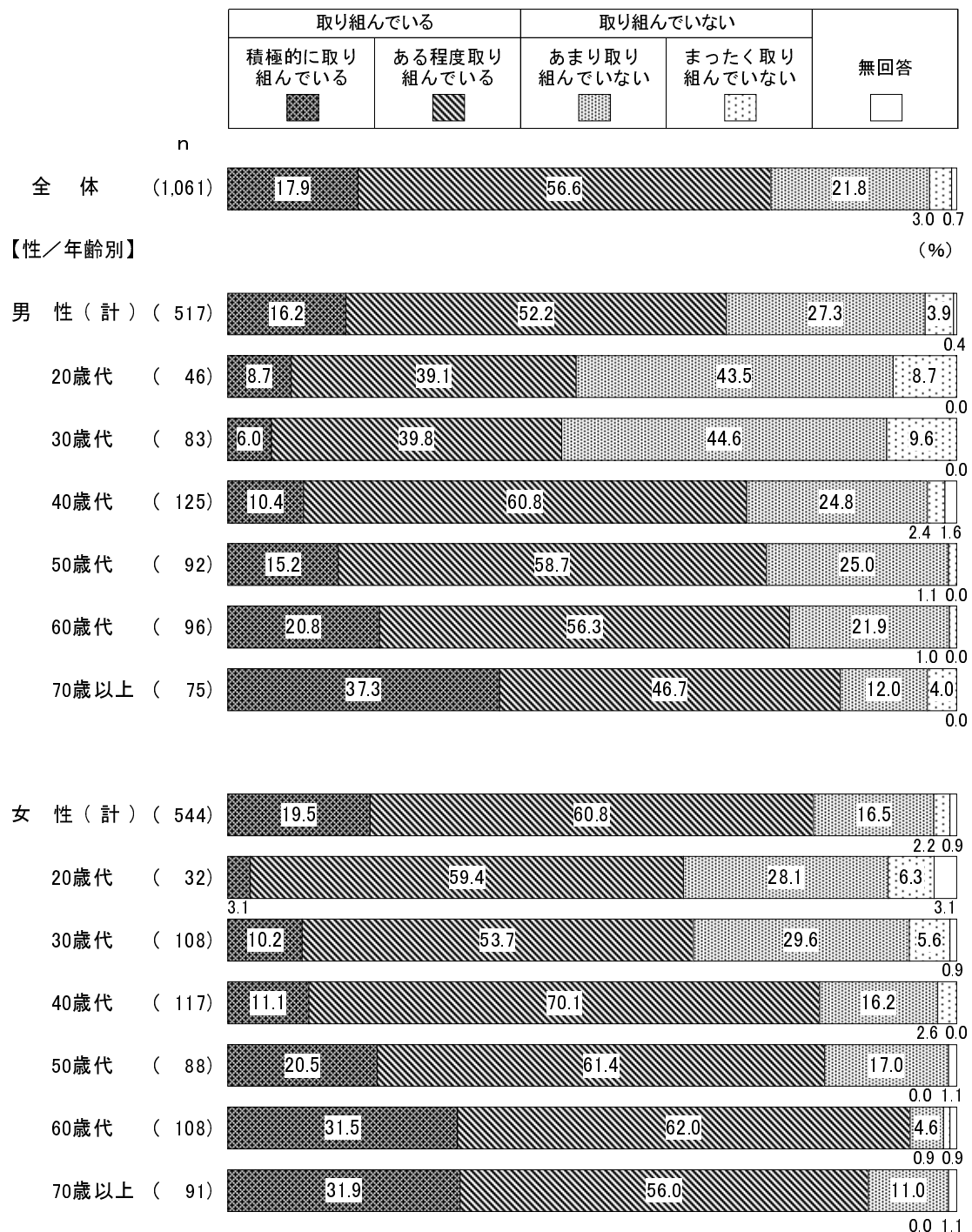


【性別・性／年齢別】

性別でみると、「取り組んでいる」は女性の方が男性より12ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「取り組んでいる」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高く、女性60歳代で9割を超えている。一方、「取り組んでいない」は男性の20歳代と30歳代で5割台となっている。（図表4-1-3）

図表4-1-3 ごみを減らす活動の取り組み状況－性別・性／年齢別

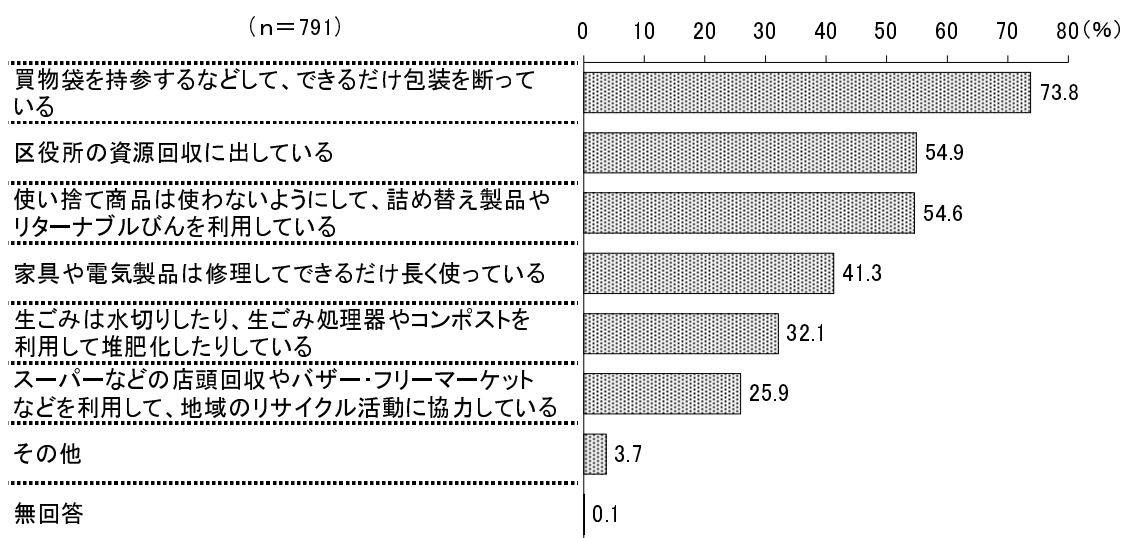


(2) ごみを減らす活動の取り組み内容

◇「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」が7割を超える

ごみを減らす活動の取り組み内容を聞いたところ、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」(73.8%)が7割を超え最も多く、次いで「区役所の資源回収に出している」(54.9%)、「使い捨て商品は使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびんを利用している」(54.6%)と続いている。(図表4-1-4)

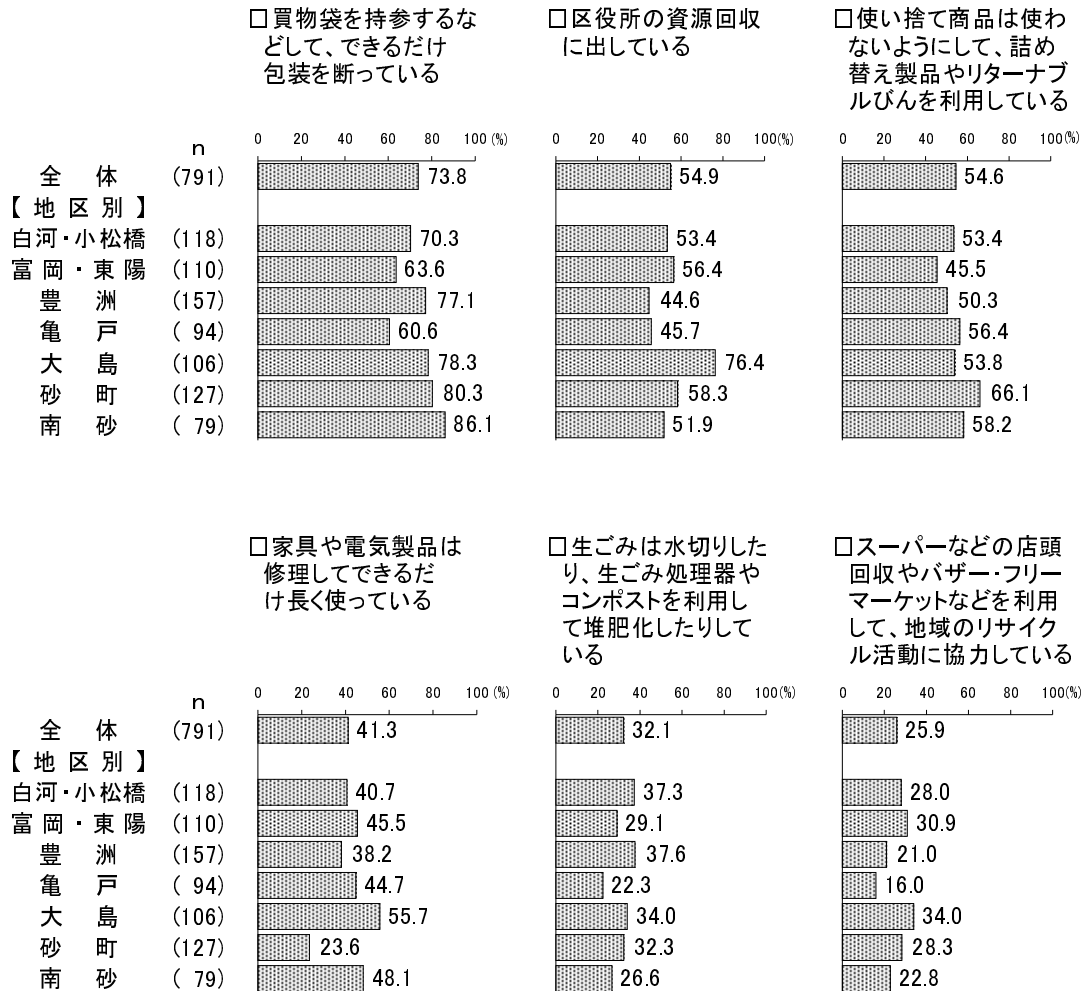
図表4-1-4 ごみを減らす活動の取り組み内容(複数回答)



【地区別】

地区別でみると、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」は【南砂】地区で8割台半ばとなっている。「区役所の資源回収に出している」は【大島】地区で7割台半ば、「使い捨て商品は使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびんを利用している」は【砂町】地区で6割台半ばとなっている。（図表4-1-5）

図表4-1-5 ごみを減らす活動の取り組み内容－地区別

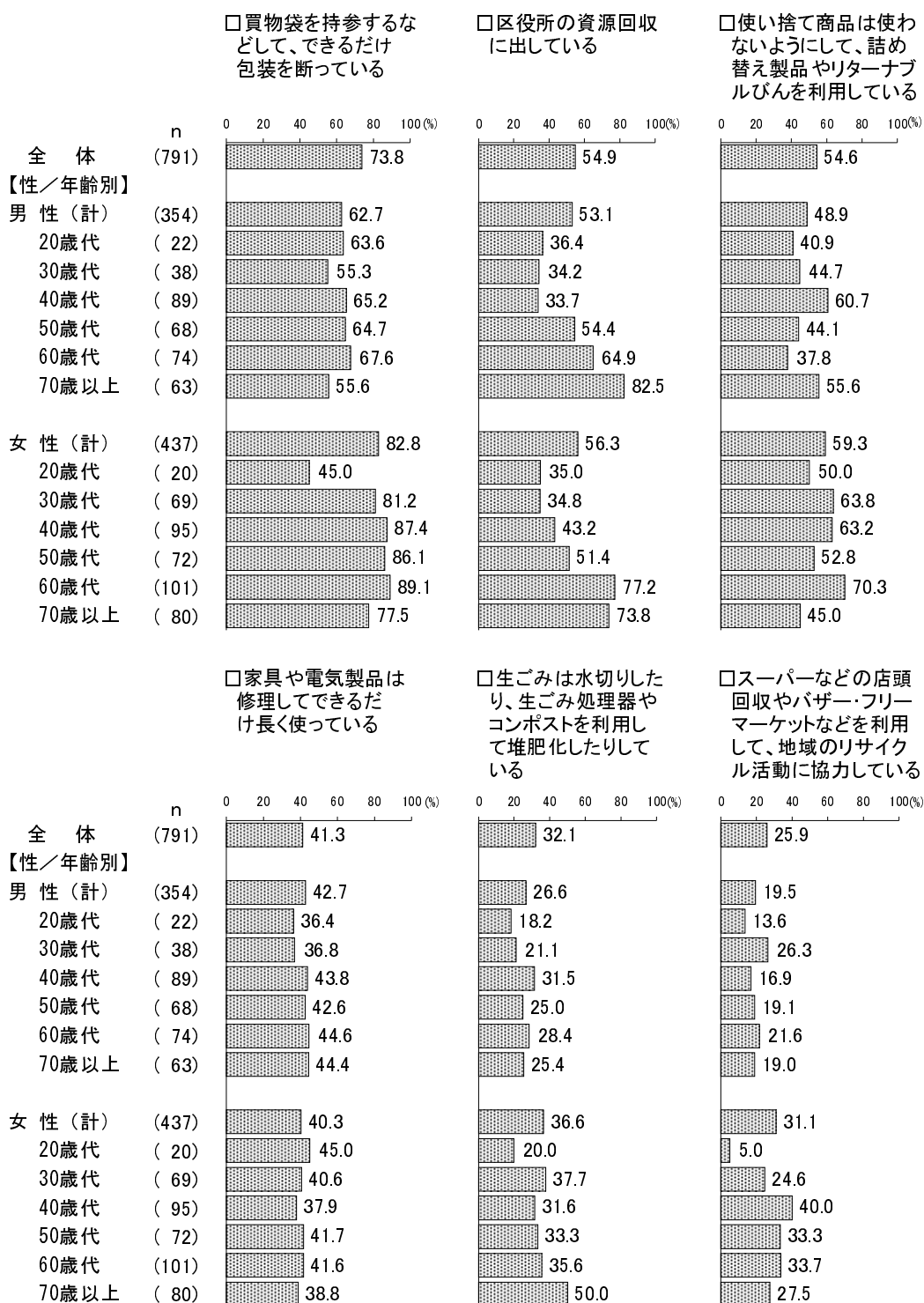


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」は女性の方が男性より 20 ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」は女性 60 歳代でほぼ 9 割となっている。「区役所の資源回収に出している」は男性 70 歳以上で 8 割を超え、女性の 60 歳代以上の年代で 7 割台となっている。（図表 4-1-6）

図表 4-1-6 ごみを減らす活動の取り組み内容－性別・性／年齢別



5 南北交通

5-1 南北を結ぶ公共交通に求めるもの

5-2 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え

5 南北交通

5-1 南北を結ぶ公共交通に求めるもの

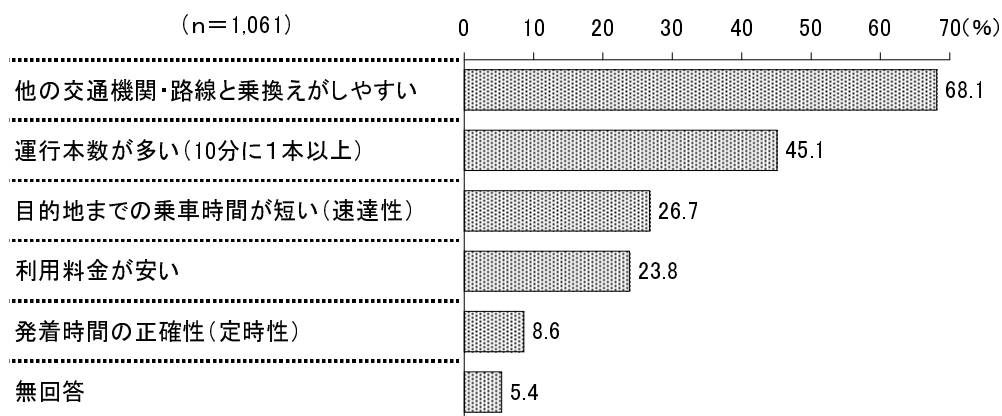
◇「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」が7割近く

問12 区では南北を結ぶ公共交通の充実を重点課題として位置付け、有楽町線の延伸(豊洲-住吉間)や、バス路線の拡充等を検討しています。あなたが、南北を結ぶ公共交通に求めるものを、次の中から2つまで選んでください。(n=1,061)

1 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい	68.1%
2 目的地までの乗車時間が短い(速達性)	26.7%
3 運行本数が多い(10分に1本以上)	45.1%
4 発着時間の正確性(定時性)	8.6%
5 利用料金が安い	23.8%
無回答	5.4%

南北を結ぶ公共交通に求めるものを聞いたところ、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」(68.1%)が7割近くで最も多く、次いで「運行本数が多い(10分に1本以上)」(45.1%)、「目的地までの乗車時間が短い(速達性)」(26.7%)と続いている。(図表5-1-1)

図表5-1-1 南北を結ぶ公共交通に求めるもの(複数回答)

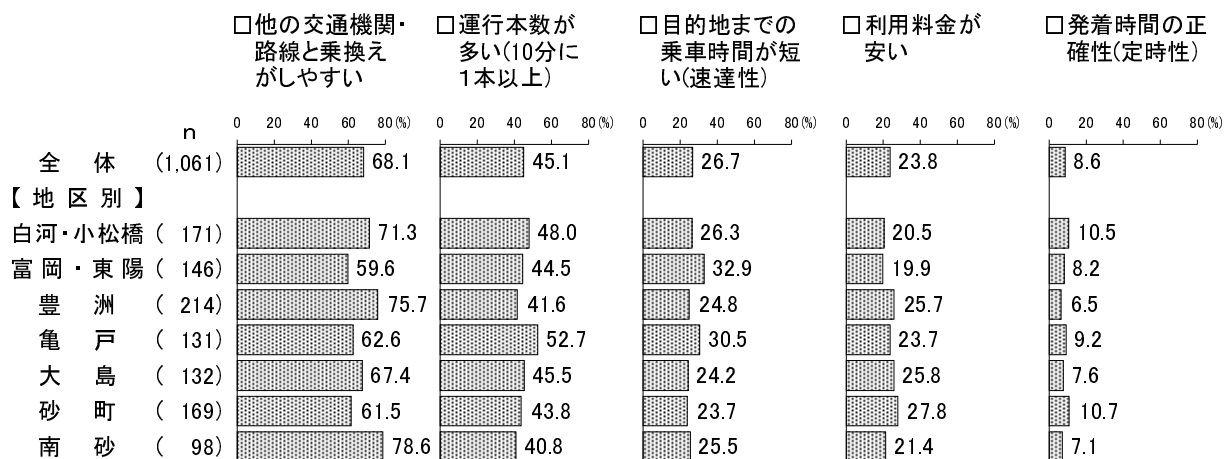


【地区別】

地区別でみると、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」は【南砂】地区で8割近くとなっている。「運行本数が多い(10分に1本以上)」は【亀戸】地区で5割を超えている。

(図表5-1-2)

図表5-1-2 南北を結ぶ公共交通に求めるもの—地区別



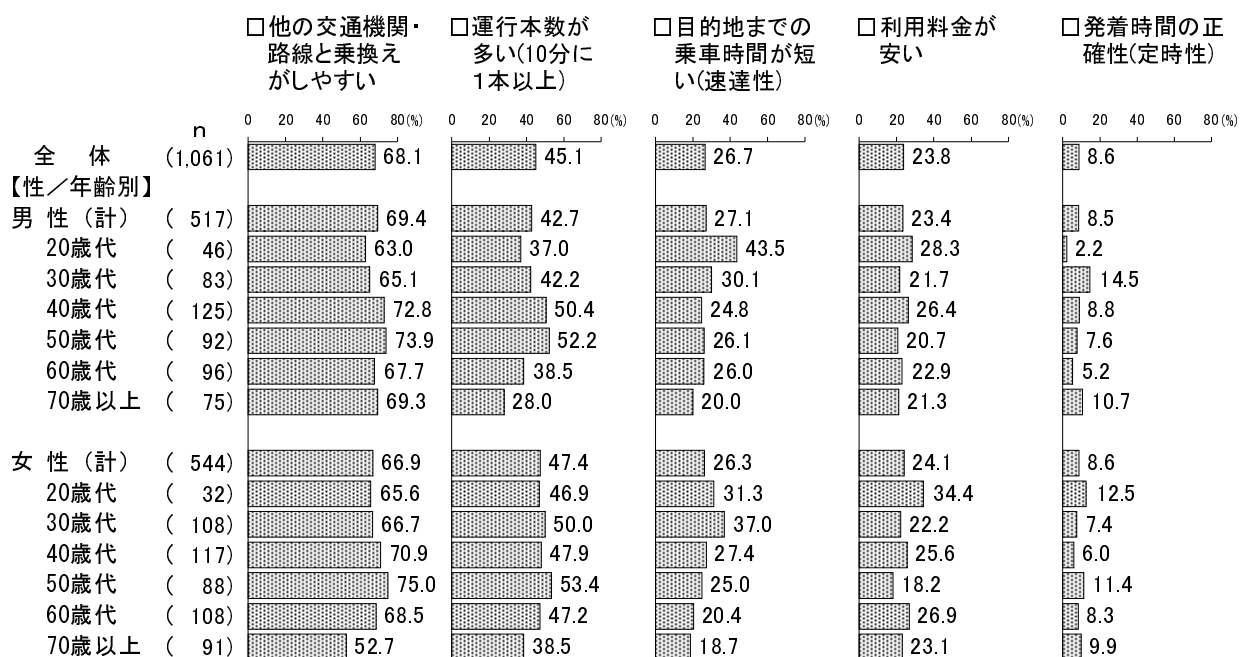
【性別・性／年齢別】

性別でみると、「運行本数が多い(10分に1本以上)」は女性の方が男性より5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」は女性50歳代で7割台半ば、「目的地までの乗車時間が短い(速達性)」は男性20歳代で4割を超えている。

(図表5-1-3)

図表5-1-3 南北を結ぶ公共交通に求めるもの—性別・性／年齢別



5-2 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え

◇《実現すべき》が8割近く

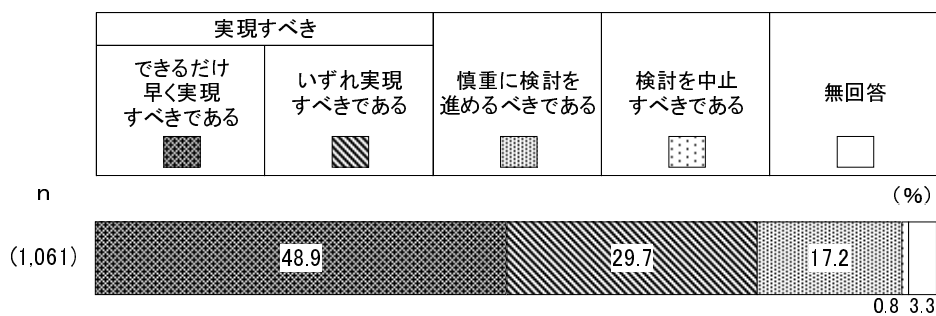
問13 区では、南北移動の利便性向上、東西線の混雑緩和などが期待される有楽町線の延伸(豊洲～住吉間)の早期実現を目指しています。あなたは有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業について、どのように考えていますか。次の中から1つだけ選んでください。

(n=1,061)

1	できるだけ早く実現すべきである	48.9%
2	いずれ実現すべきである	29.7%
3	慎重に検討を進めるべきである	17.2%
4	検討を中止すべきである	0.8%
	無回答	3.3%

有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考えを聞いたところ、「できるだけ早く実現すべきである」(48.9%)と「いずれ実現すべきである」(29.7%)の2つを合わせた《実現すべき》(78.6%)が8割近くとなっている。また、「慎重に検討を進めるべきである」(17.2%)は2割近くとなっている。(図表5-2-1)

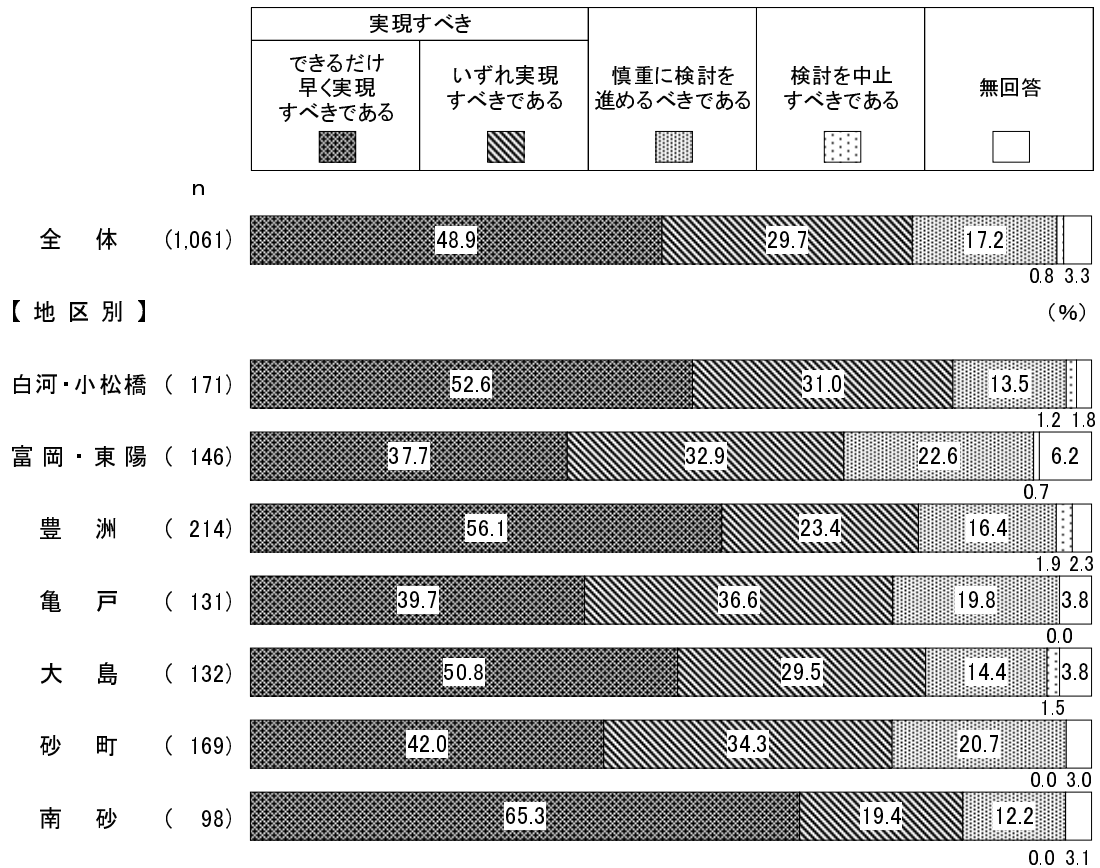
図表5-2-1 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え



【地区別】

地区別で見ると、「できるだけ早く実現すべきである」は【南砂】地区で6割台半ばとなっている。《実現すべき》は【南砂】地区、【白河・小松橋】地区、【大島】地区で8割台となっている。（図表5-2-2）

図表5-2-2 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え—地区別

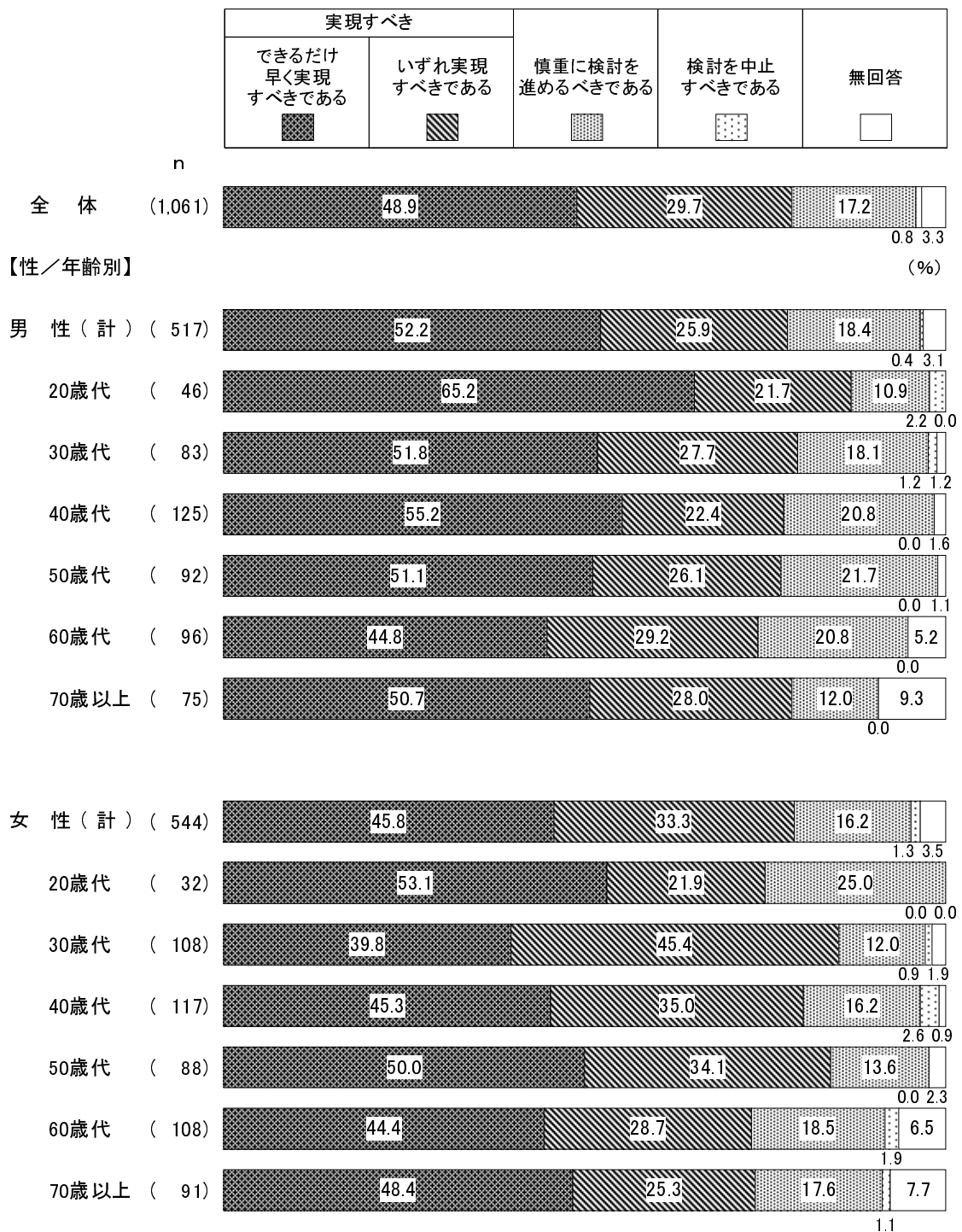


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「いずれ実現すべきである」は女性の方が男性より7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「実現すべき」はすべての年代で7割以上となっており、男性20歳代で9割近くとなっている。（図表5-2-3）

図表5-2-3 有楽町線（豊洲～住吉間）の延伸事業についての考え－性別・性／年齢別



6 選挙

6-1 江東区議会議員・江東区長選挙の投票の有無

6-2 「選挙公報」の閲読状況

6 選挙

6-1 江東区議会議員・江東区長選挙の投票の有無

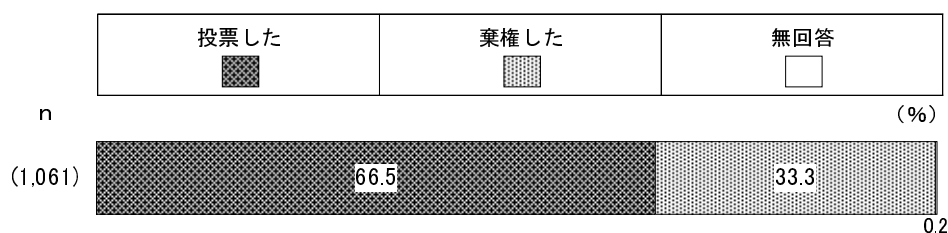
◇「投票した」は7割近く

<p>問14 平成27年4月26日は、江東区議会議員・江東区長選挙の投票日でしたが、あなたは投票しましたか。次の中から<u>1つだけ</u>選んでください。(n=1,061)</p>			
1 投票した	66.5%	2 棄権した	33.3%
		無回答	0.2%
<p>(問14で、「1 投票した」とお答えの方に) 問14-1 あなたが、候補者を選ぶのに役立ったと思うものを、次の中から<u>2つまで</u>選んでください。(n=706)</p>		<p>(問14で、「2 棄権した」とお答えの方に) 問14-2 あなたが、江東区議会議員・江東区長選挙に投票しなかった理由を、次の中から<u>1つだけ</u>選んでください。(n=353)</p>	
1 選挙公報	53.4%	1 支持する候補者がいなかった	19.0%
2 候補者のポスター	32.7%	2 候補者をよく知らなかった	18.4%
3 候補者のはがき	3.8%	3 結果に影響ないと思った	6.5%
4 候補者の演説	20.4%	4 棄権もひとつの意思表示だから	2.5%
5 候補者の新聞広告	15.4%	5 投票する時間がなかった	15.6%
6 マスコミの選挙報道	8.8%	6 病気だった	6.5%
7 家族や知人との話し合い	21.8%	7 投票所が遠かった	-
8 候補者等のホームページ	5.4%	8 関心がなかった	17.6%
9 その他	3.5%	9 期日前(不在者)投票の方法がよくわからなかった	1.7%
無回答	0.7%	10 入場整理券が届かなかった	-
		11 まだ選挙権がなかった	0.6%
		12 その他	11.3%
		無回答	0.3%

(1) 江東区議会議員・江東区長選挙の投票の有無

平成27年4月に行われた江東区議会議員・江東区長選挙に投票したか聞いたところ、「投票した」(66.5%)は7割近くとなっている。なお、実際の江東区議会議員選挙の投票率は46.38%であった。(図表6-1-1)

図表6-1-1 江東区議会議員・江東区長選挙の投票の有無

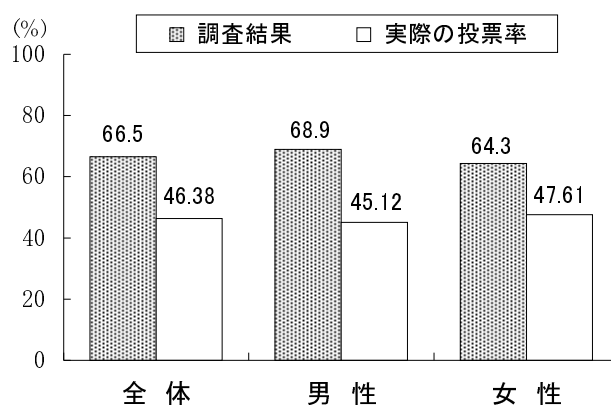


【性別】

性別で見ると、「投票した」は女性の方が男性より5ポイント高くなっている。

実際の投票率は、男性45.12%、女性47.61%となっている。(図表6-1-2)

図表6-1-2 回答投票率と実際の投票率－性別

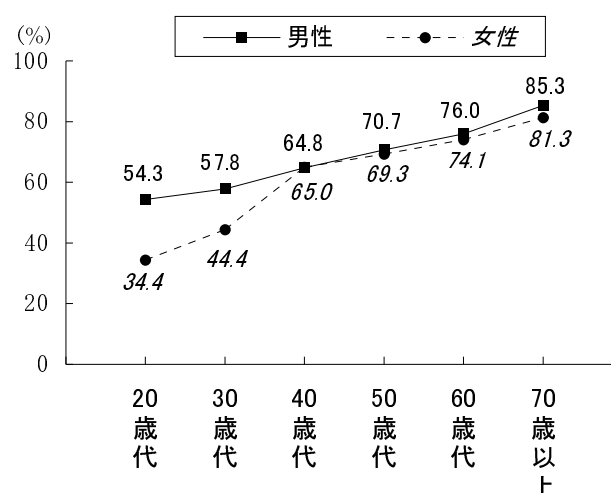


【性／年齢別】

性／年齢別で見ると、20歳代では男性の方が女性より20ポイント高く、30歳代では男性の方が女性より13ポイント高くなっている。

(図表6-1-3)

図表6-1-3 回答投票率－性／年齢別

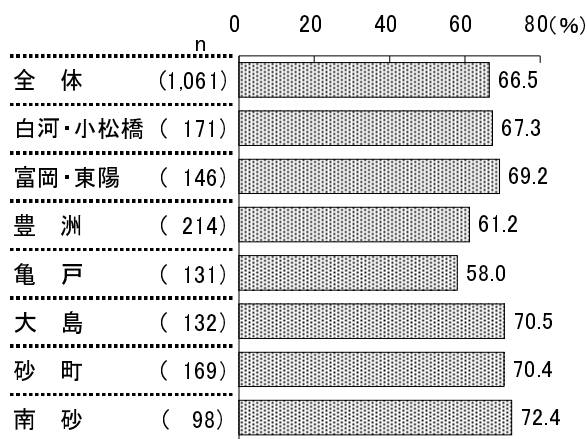


【地区別】

地区別で見ると、【南砂】地区、【大島】地区、【砂町】地区で7割台となっている。一方、【亀戸】地区では5割台にとどまっている。

(図表6-1-4)

図表6-1-4 回答投票率－地区別

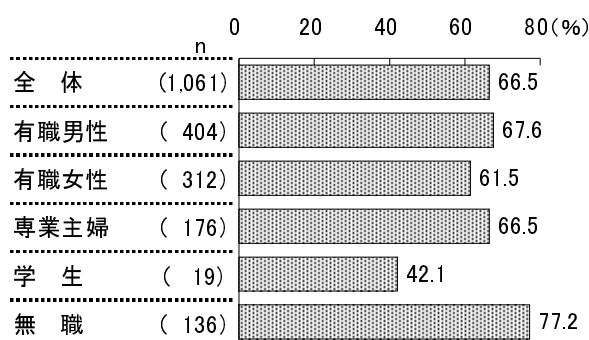


【職業別】

職業別で見ると、無職が8割近く、有職男性と専業主婦が7割近くとなっている。

(図表6-1-5)

図表6-1-5 回答投票率－職業別



(2) 推定投票率

実際の投票率は46.38%であり、今回の調査結果(66.5%)とは20.1ポイントの差がある。

このような形式の質問で、回答が実際の結果と差異が生じることが多いのは、①世論調査の回答者は、世論調査に協力しなかった人に比べて区政への関心度が相対的に高いと考えられ、回答者全体に占める投票した人の割合も高くなると考えられること、②実際には投票に行っていない人の中には、面接する調査員に対して“見かけをつくろう”とする心理が働いて「投票した」と答えた人がいると考えられること、③今回の調査の実施が投票日から約2か月経過しているため、記憶が曖昧であった回答者がいると考えられること、の3つの要因が考えられる。これらの要因は世論調査では避けがたいものであるが、結果の数値を一定の値としてみる限り、大きな支障はないと考えられる。そこで、性/年齢別による分析を正確にするため、下記の式による補正係数を算出した。(図表6-1-6)

図表6-1-6 実際の投票率との比較と補正係数

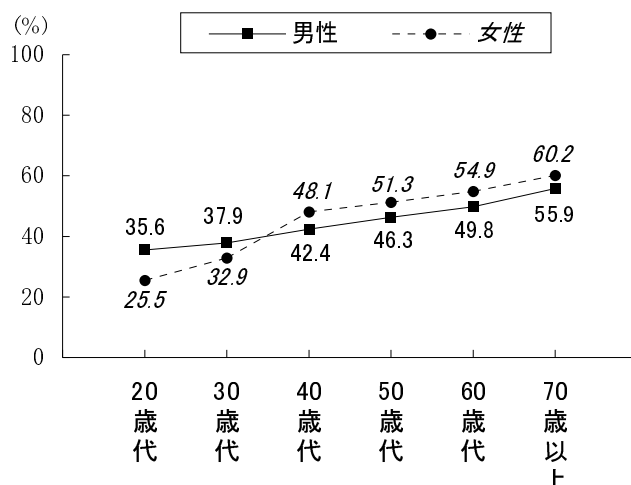
	全 体	■補正係数 = 実際の投票率 ÷ 回答投票率			
調査結果による投票率	66.5%	男性	0.6549	45.12%	68.9%
実際の投票率	46.38%	女性	0.7404	47.61%	64.3%
		全体	0.6974	46.38%	66.5%

それぞれの性別の補正係数を各年齢層に掛け合わせて、性/年齢別の推定投票率を求めると以下の図表6-1-7のようになる。なお、グラフ中の数値については、小数点第2位を四捨五入した。

推定投票率をみると、女性20歳代で最も低く25.5%、女性70歳以上で最も高く60.2%となっている。また、男女とも高い年代ほど割合が高くなっている。(図表6-1-7)

図表6-1-7 調査結果による推定投票率—性/年齢別

【推定投票率】

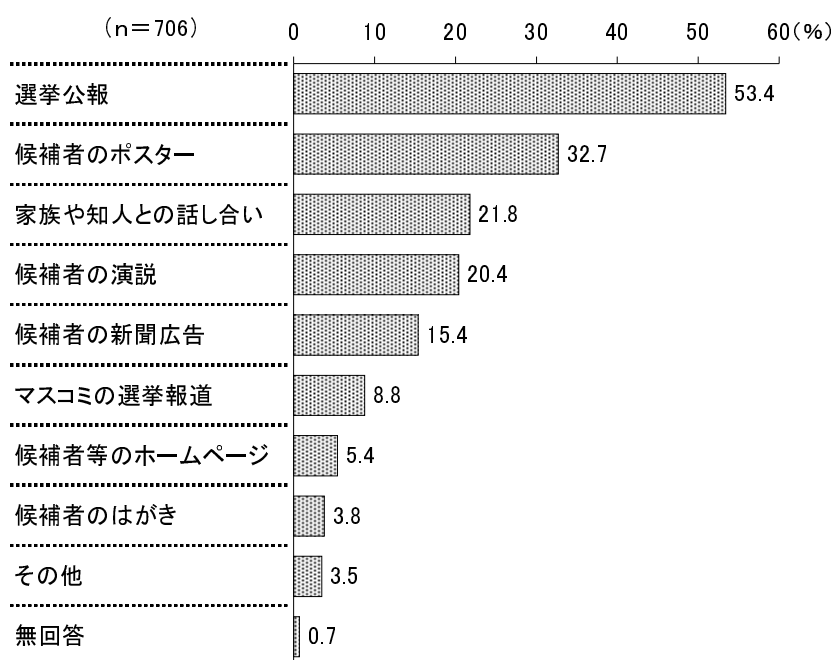


(3) 候補者を選ぶのに役立ったもの

◇「選挙公報」が5割を超える

平成27年4月に行われた江東区議会議員・江東区長選挙に「投票した」と答えた方(706人)に、候補者を選ぶのに役立ったものは何か聞いたところ、「選挙公報」(53.4%)が5割を超え最も多く、次いで「候補者のポスター」(32.7%)、「家族や知人との話し合い」(21.8%)、「候補者の演説」(20.4%)と続いている。(図表6-1-8)

図表6-1-8 候補者を選ぶのに役立ったもの(複数回答)

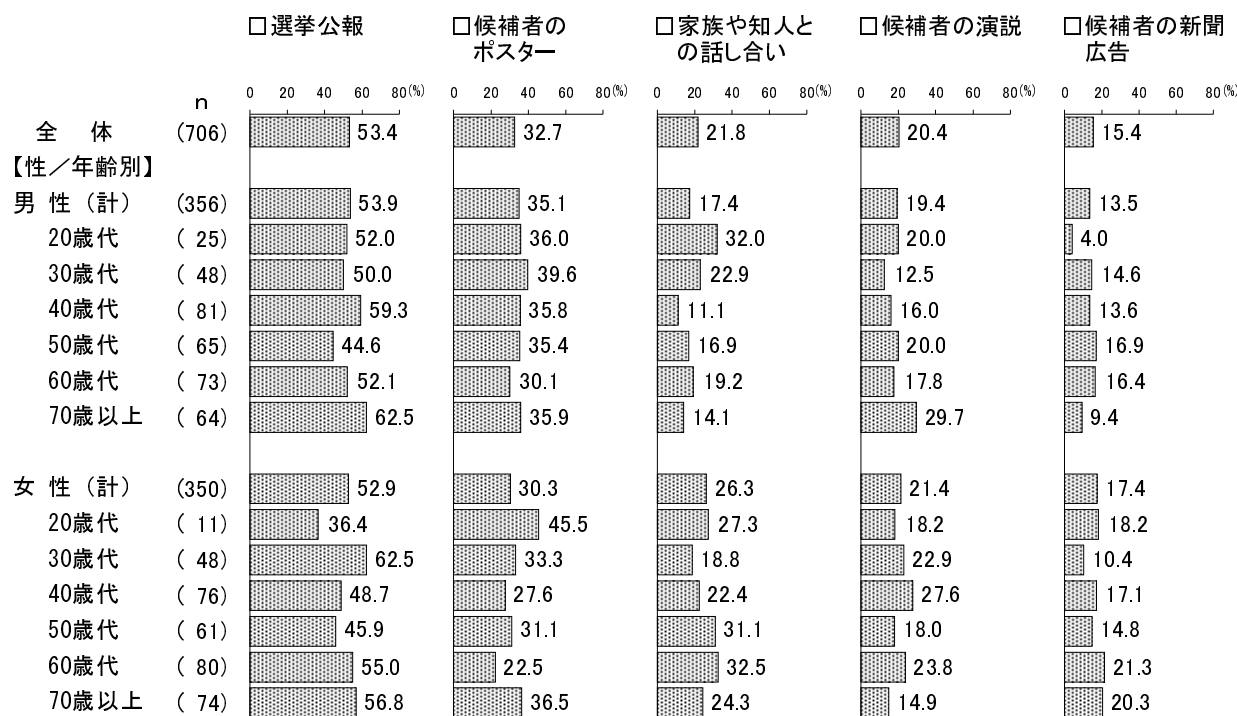


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「家族や知人との話し合い」は女性の方が男性より9ポイント高くなっている。
 性／年齢別で見ると、「選挙公報」は男性70歳以上と女性30歳代で6割を超えている。「候補者のポスター」は女性20歳代で4割台半ば、男性30歳代で4割となっている。

(図表6-1-9)

図表6-1-9 候補者を選ぶのに役立ったもの—性別・性／年齢別（上位5項目）

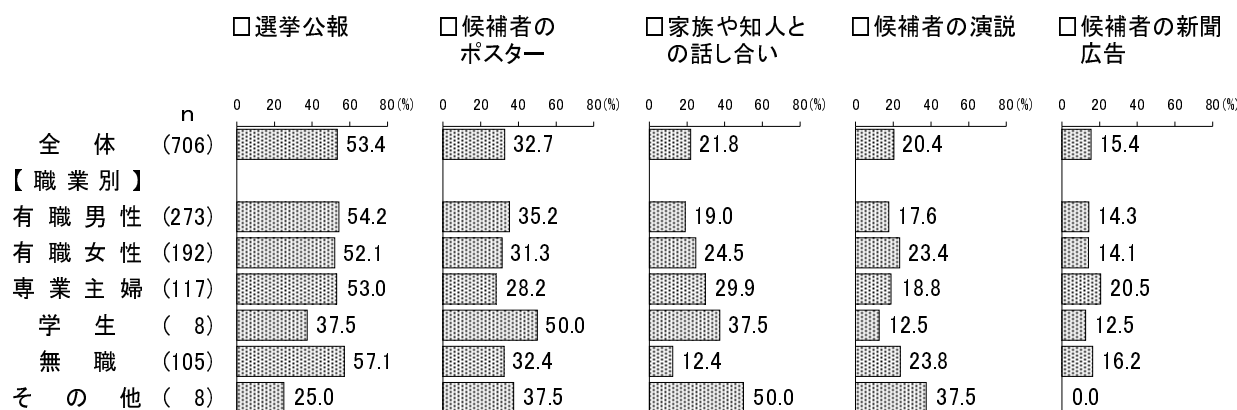


【職業別】

職業別で見ると、「選挙公報」は無職で6割近く、有職男性で5割台半ばとなっている。

(図表6-1-10)

図表6-1-10 候補者を選ぶのに役立ったもの—職業別（上位5項目）

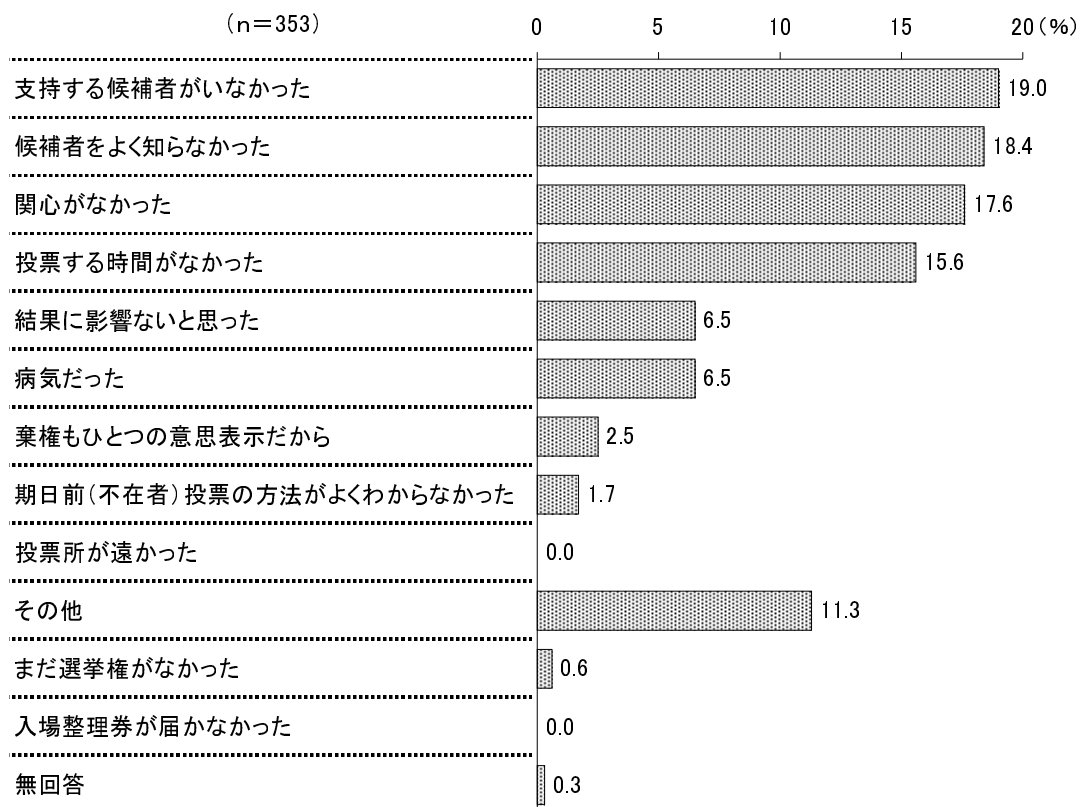


(4) 棄権理由

◇「支持する候補者がいなかった」がほぼ2割

平成27年4月に行われた江東区議会議員・江東区長選挙に「棄権した」と答えた方(353人)に、その理由を聞いたところ、「支持する候補者がいなかった」(19.0%)がほぼ2割で最も多く、次いで「候補者をよく知らなかった」(18.4%)、「関心がなかった」(17.6%)、「投票する時間がなかった」(15.6%)と続いている。(図表6-1-11)

図表6-1-11 棄権理由(複数回答)



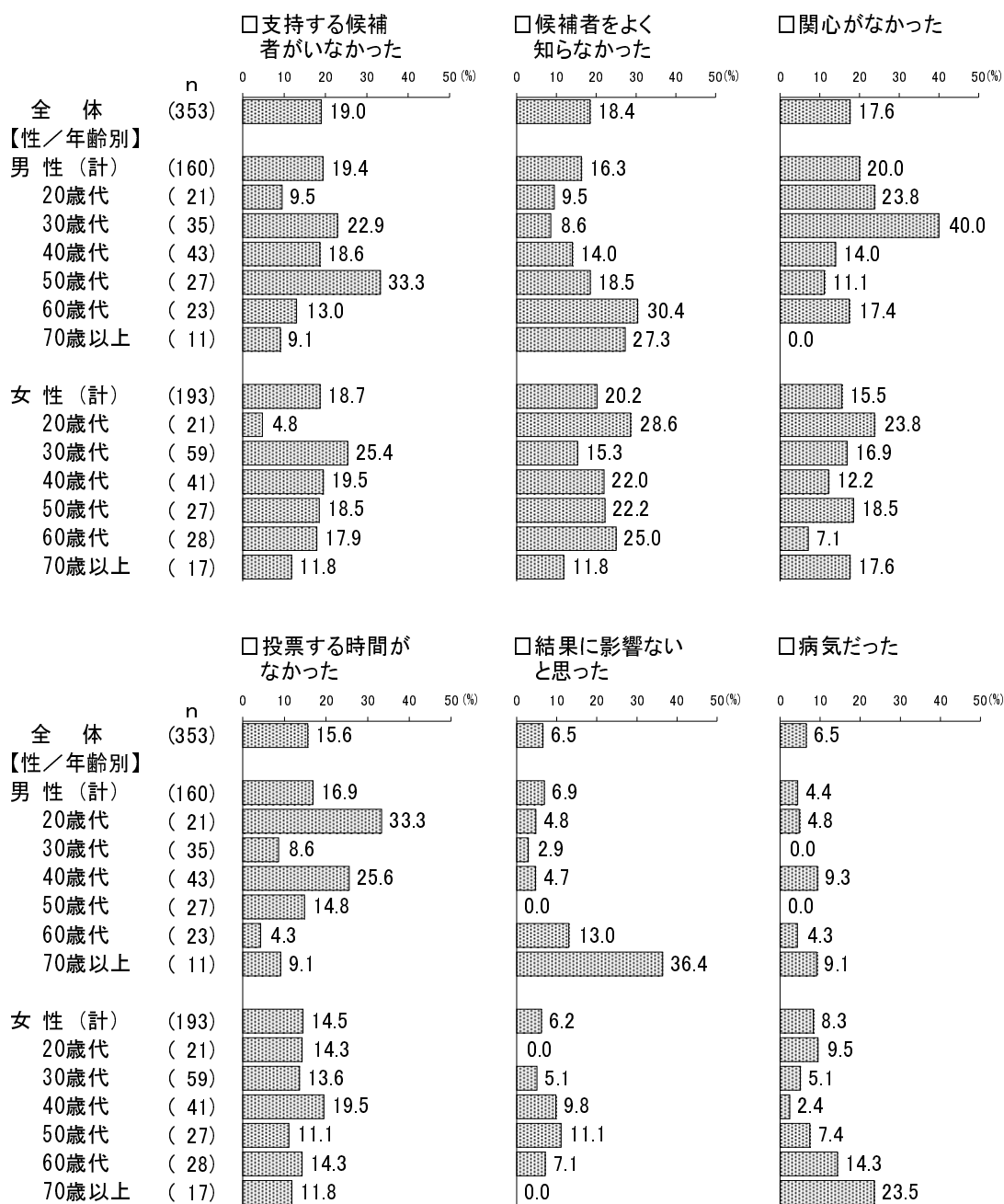
【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「関心がなかった」は男性の方が女性より5ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「支援する候補者がいなかった」は男性50歳代で3割を超え、女性30歳代で2割台半ばとなっている。「関心がなかった」は男性30歳代で4割となっている。

(図表6-1-12)

図表6-1-12 棄権理由－性別・性／年齢別（上位6項目）



6-2 「選挙公報」の閲読状況

◇「読んだ」は6割を超える

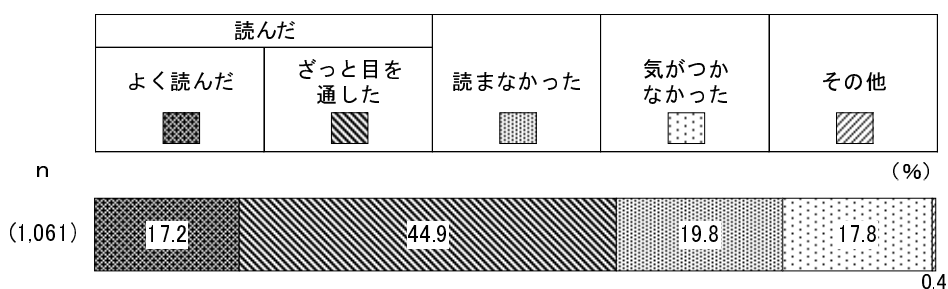
問15 区の選挙管理委員会では、江東区議会議員・江東区長選挙の「選挙公報」を各戸配布し、また、区内各施設や区内各駅に公報スタンドを設置しましたが、あなたはお読みにになりましたか。次の中から1つだけ選んでください。(n=1,061)

1	よく読んだ	17.2%	4	気がつかなかった	17.8%
2	ざっと目を通した	44.9%	5	その他	0.4%
3	読まなかった	19.8%			

江東区議会議員・江東区長選挙の「選挙公報」を読んだか聞いたところ、「よく読んだ」(17.2%)と「ざっと目を通した」(44.9%)の2つを合わせた「読んだ」(62.1%)は6割を超えている。「読まなかった」(19.8%)は2割、「気がつかなかった」(17.8%)は2割近くとなっている。

(図表6-2-1)

図表6-2-1 「選挙公報」の閲読状況



【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「ざっと目を通した」は女性の方が男性より5ポイント高く、「読まなかった」は男性の方が女性より5ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「読んだ」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高く、男性70歳以上で8割台半ば、女性70歳以上でほぼ8割となっている。(図表6-2-2)

図表6-2-2 「選挙公報」の閲読状況－性別・性／年齢別

